

台東区多文化共生に関する意識調査報告書

【概要版】

令和3年1月

台東区

目次

本調査の調査概要	2
調査結果のポイント	3
1 外国人意識調査	3
2 日本人意識調査	7
3 外国人・日本人 共通設問の比較.....	9
外国人意識調査の結果	10
1 回答者の属性	10
2 ことばについて.....	12
3 日頃の暮らしについて	13
4 地域での交流について	19
日本人意識調査の結果	20
1 回答者の属性	20
2 地域に暮らす外国人とのかかわりについて	21
3 多文化共生のまちづくりについて	23
外国人・日本人 共通設問の比較.....	25
1 地域に暮らす外国人と日本人とのかかわりについて.....	25
2 外国人を対象としたサービスや取組の認知度について	27
3 台東区の魅力について	28

本調査の調査概要

■調査の目的

現在、台東区には多くの在住外国人が生活している。その割合は年々増加しており、今後もさらなる増加が予想されている。このような現状から、多様化・複雑化する在住外国人のニーズに対応するとともに、地域における多文化共生の意識を醸成し、日本人と外国人がともに地域の担い手として活躍する地域づくりを推進するために、区では多文化共生推進プランを策定することとした。

本調査は、多文化共生推進プラン策定の基礎資料とするとともに、今後の台東区が多文化共生推進に役立てるために実施した。

■調査方法

調査票の発送によるアンケート調査、及びウェブ調査により実施した。

調査は、区内在住の「外国人」及び「日本人」の2つの対象に向けた調査票を用いて行った。

	外国人意識調査	日本人意識調査
調査地域	台東区全域	台東区全域
調査対象	18歳以上の区内在住の外国人 5,000人	18歳以上の区内在住の日本人 2,000人
調査方法等	○抽出方法:住民基本台帳からの無作為抽出 ○調査方法:郵送配布－郵送回収 またはウェブ回答 ※やさしい日本語版と対象者の国籍に合わせた翻訳版の調査票を同封	○抽出方法:住民基本台帳からの無作為抽出 ○調査方法:郵送配布－郵送回収 またはウェブ回答
言語	英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、ベトナム語、タガログ語、タイ語、やさしい日本語	日本語
調査期間	令和2年8月28日～9月10日	令和2年8月28日～9月10日

■アンケート調査の回収状況

アンケート調査の回収状況は以下のとおりである。

	外国人意識調査	日本人意識調査
標本数 :A	5,000	2,000
郵便物未着数 :B	274	14
調査対象数 :C=A-B	4,726	1,986
有効回答数 :D	1,219 (内、ウェブ回答数 315)	933 (内、ウェブ回答数 113)
有効回答率 :E=D/C*100	25.8%	47.0%

■調査結果をみる上での注意事項

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向をみるにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・本文中の「全体平均と比較して高い・低い」は、原則全体平均より10ポイント以上差のあるものを挙げている。

調査結果のポイント

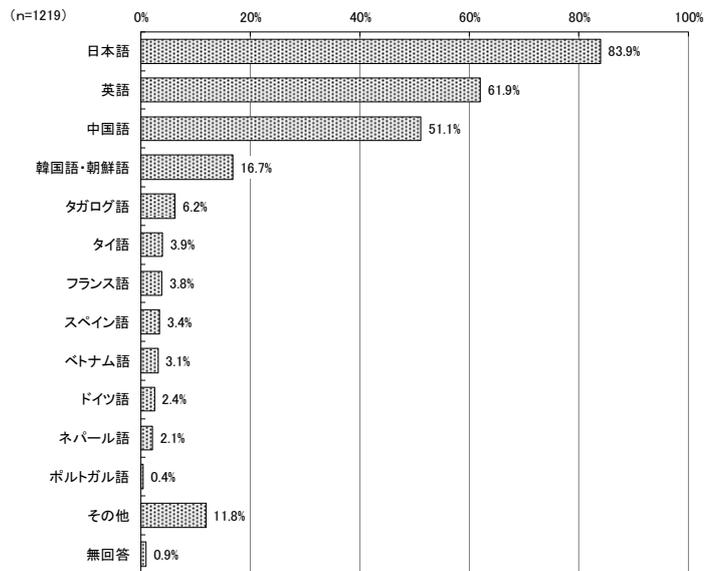
1 外国人意識調査

ポイント1

日常会話以上の日本語ができる外国人は8割以上、
読む・書くより、聞く・話すことができる外国人の方が多い

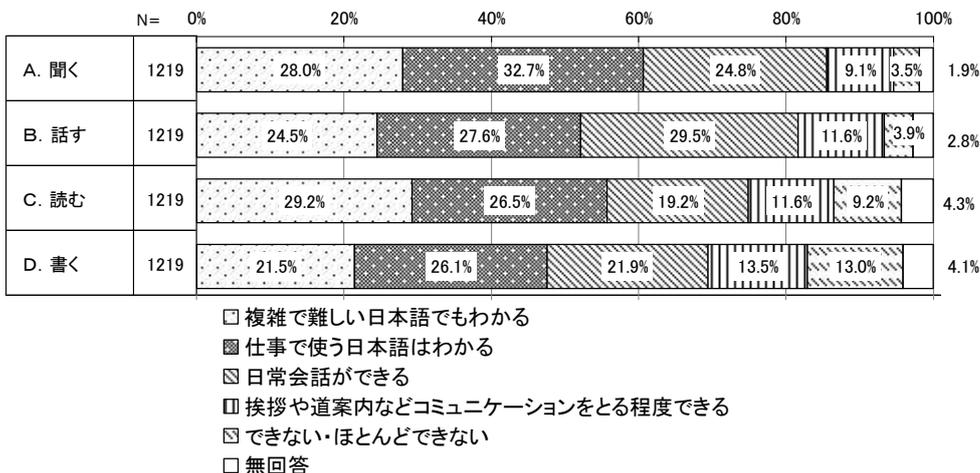
わかる言語は、「日本語」(83.9%)が最も高く、次いで、「英語」(61.9%)、「中国語」(51.1%)となっている。

図表 わかる言語（複数回答）



「A.聞く」及び「B.話す」の習得度は、「複雑で難しい日本語でもわかる」「仕事で使う日本語はわかる」「日常会話ができる」と回答する合計の割合が80%を超えている。「C.読む」及び「D.書く」の習得度は、「複雑で難しい日本語でもわかる」「仕事で使う日本語はわかる」「日常会話ができる」と回答する合計の割合が70%前後となっている。

図表 日本語の習得度（単一回答）

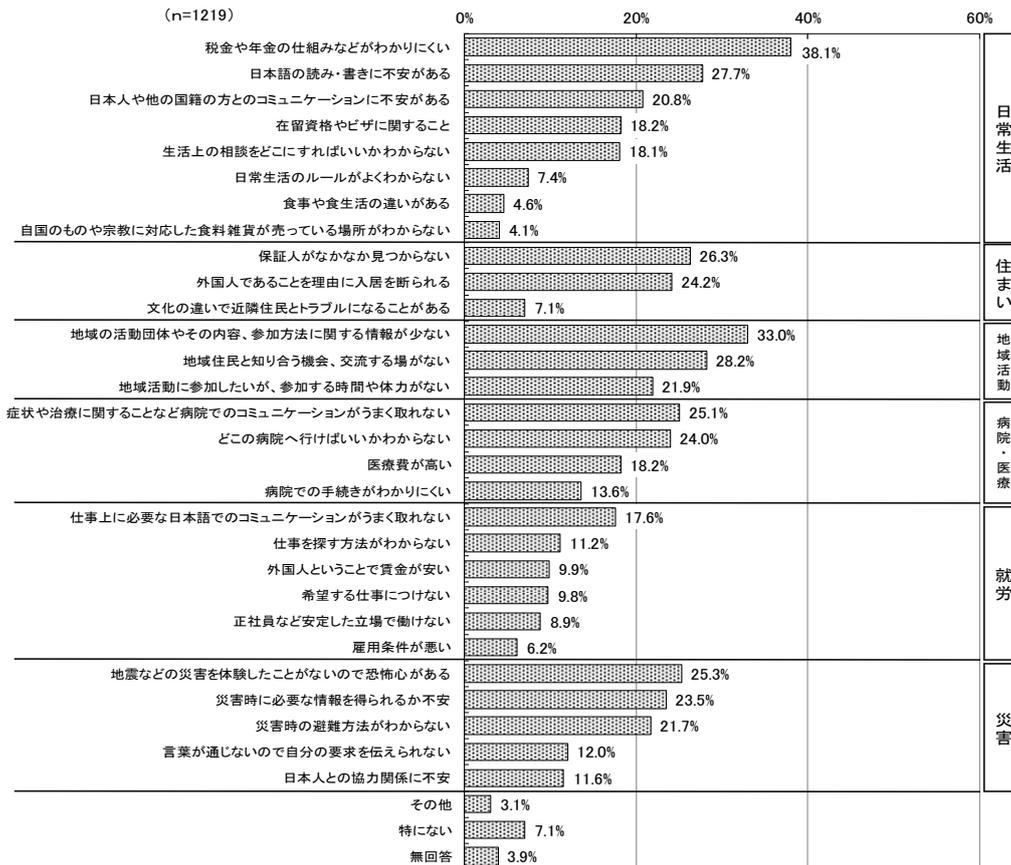


ポイント2

税金や年金について困っている外国人が多く、情報がより必要とされている

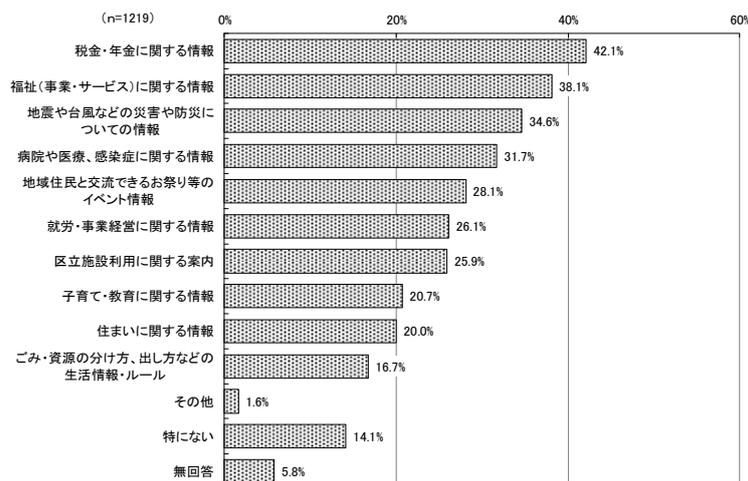
日本での生活で、困っていることや心配なことについて、「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(38.1%)が最も高く、次いで、「地域の活動団体やその内容、参加方法に関する情報が少ない」(33.0%)、「地域住民と知り合う機会、交流する場がない」(28.2%)、「日本語の読み・書きに不安がある」(27.7%)などと続いている。

図表 日本での生活で、困っていることや心配なこと（複数回答）



また、生活していくうえで必要な情報について、「税金・年金に関する情報」(42.1%)が最も高く、次いで、「福祉(事業・サービス)に関する情報」(38.1%)、「地震や台風などの災害や防災についての情報」(34.6%)、「病院や医療、感染症に関する情報」(31.7%)などと続いている。

図表 生活していくうえで必要な情報（複数回答）

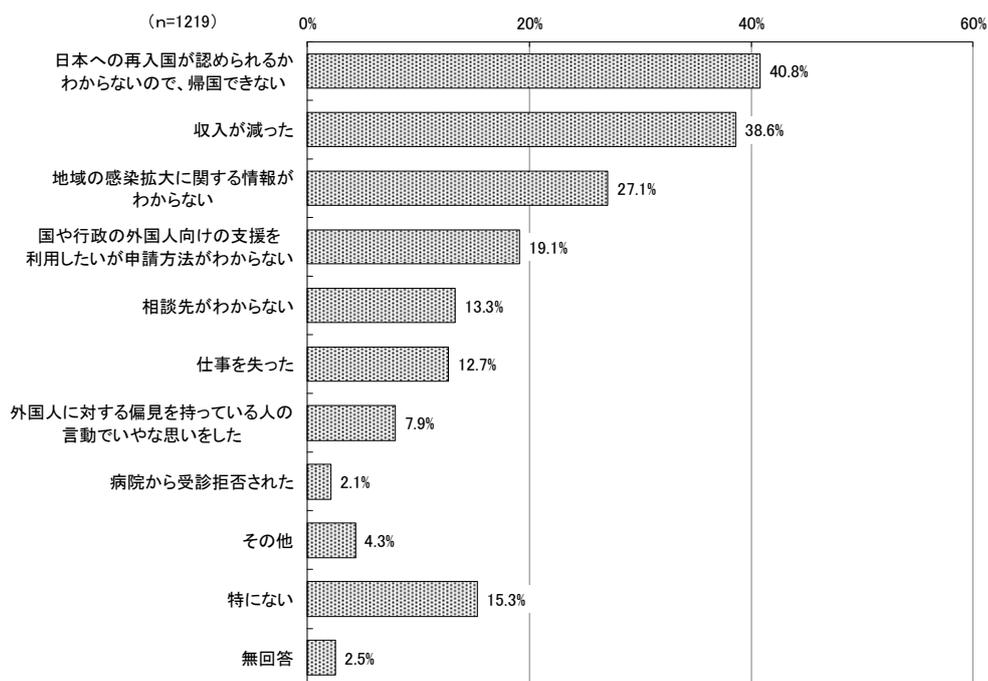


ポイント3

新型コロナウイルス感染拡大により、約4割の人が再入国への不安から帰国できないことや収入の減少という影響を受けている

新型コロナウイルス感染拡大による影響について、「日本への再入国が認められるかわからないので、帰国できない」(40.8%)が最も高く、次いで、「収入が減った」(38.6%)、「地域の感染拡大に関する情報がわからない」(27.1%)となっている。

図表 新型コロナウイルス感染拡大による影響（複数回答）

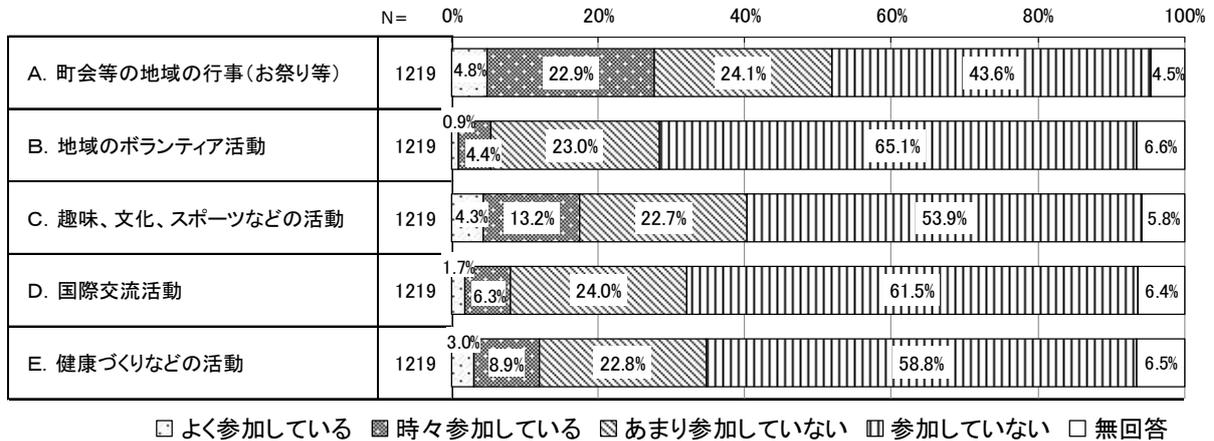


ポイント4

地域活動への参加率はお祭り等が多く3割弱となっているが、
関心は国際交流・異文化交流が最も高い

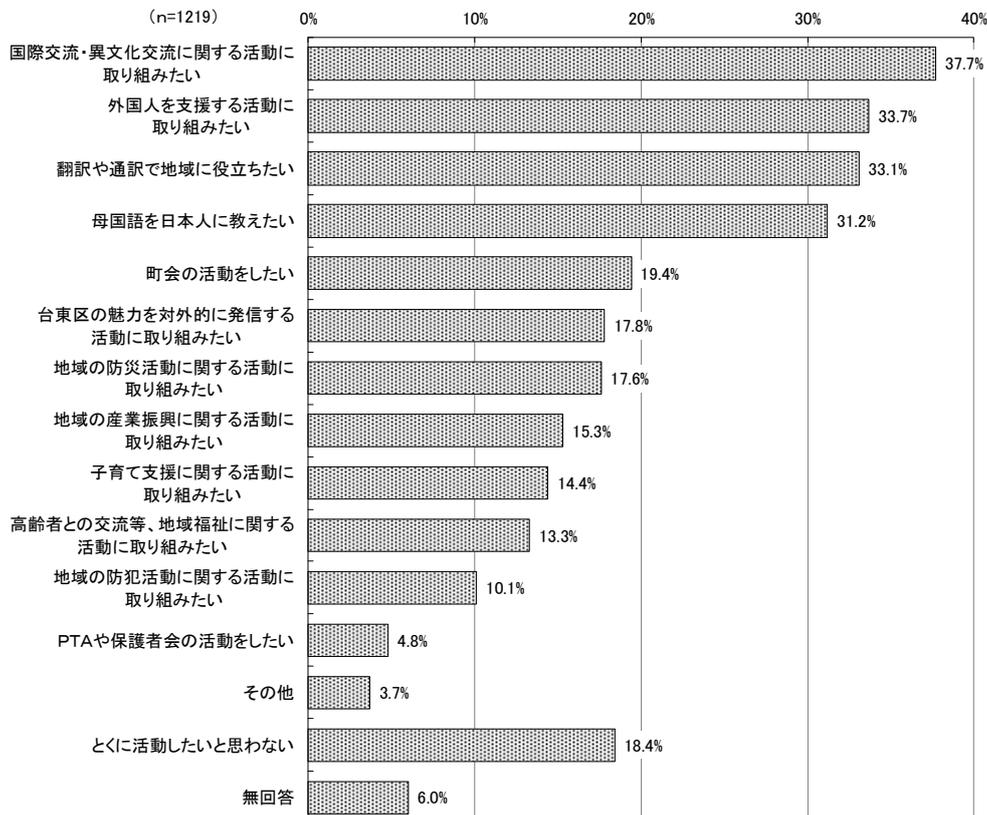
地域活動への参加状況について、「よく参加している」「時々参加している」の合計の割合は「A. 町会等の地域の行事(お祭り等)」(27.7%)が最も高く、次いで、「C. 趣味、文化、スポーツなどの活動」(17.5%)、「E. 健康づくりなどの活動」(11.9%)となっている。

図表 地域活動への参加状況 (単一回答)



また、地域活動への今後の参加意向について、「国際交流・異文化交流に関する活動に取り組みたい」(37.7%)が最も高く、次いで、「外国人を支援する活動に取り組みたい」(33.7%)、「翻訳や通訳で地域に役立ちたい」(33.1%)となっており、国際交流・異文化交流などの地域活動に関心を持っているが、活動できていない人が多いことがわかる。

図表 地域活動への今後の参加意向 (複数回答)



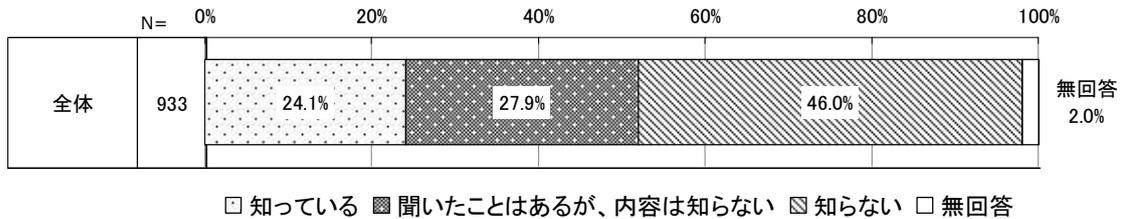
2 日本人意識調査

ポイント5

「多文化共生」という言葉の認知度は5割強、「やさしい日本語」という言葉の認知度は4割弱となっている

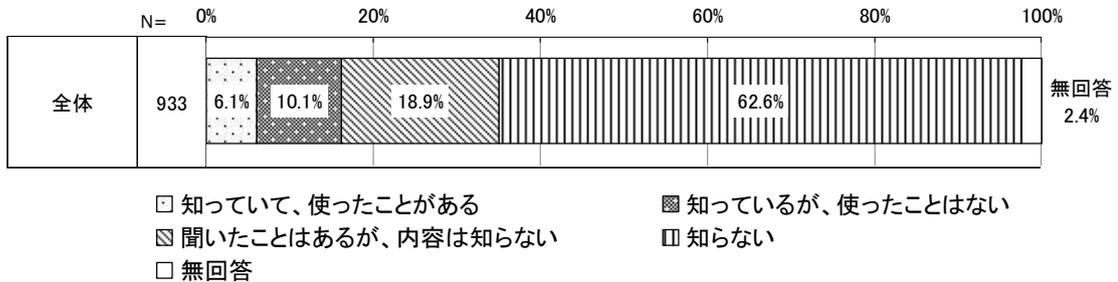
「多文化共生」という言葉について「知らない」(46.0%)が最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(27.9%)となっている。「知っている」(24.1%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」(27.9%)を合わせた認知度は52.0%である。

図表 「多文化共生社会」という言葉の認知度（単一回答）



また、「やさしい日本語」という言葉についても「知らない」(62.6%)が最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(18.9%)となっている。「知っている、使ったことがある」(6.1%)、「知っているが、使ったことはない」(10.1%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせると認知度は35.1%である。

図表 「やさしい日本語」の認知度（単一回答）

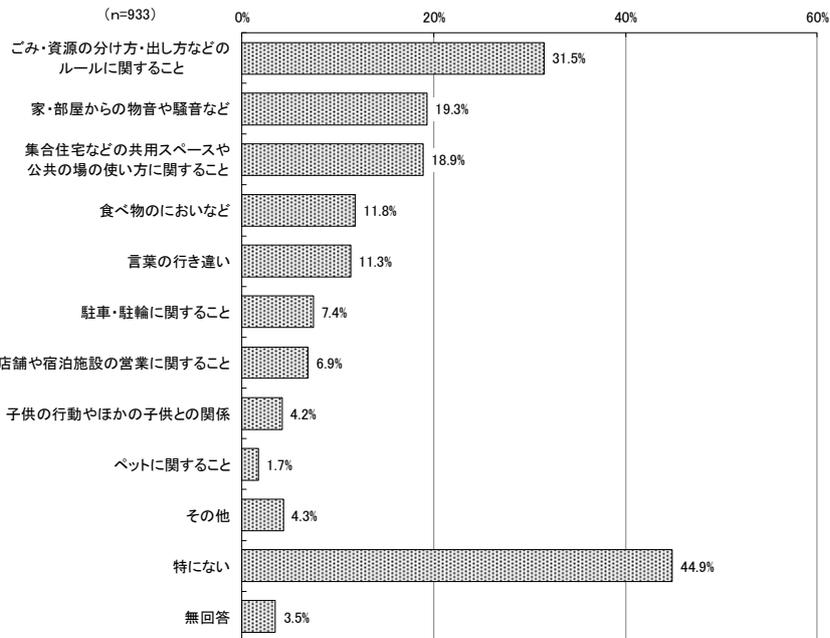


ポイント6

地域住民相互の理解のために外国人に求めることは、日常生活のルールに関することが最も高い

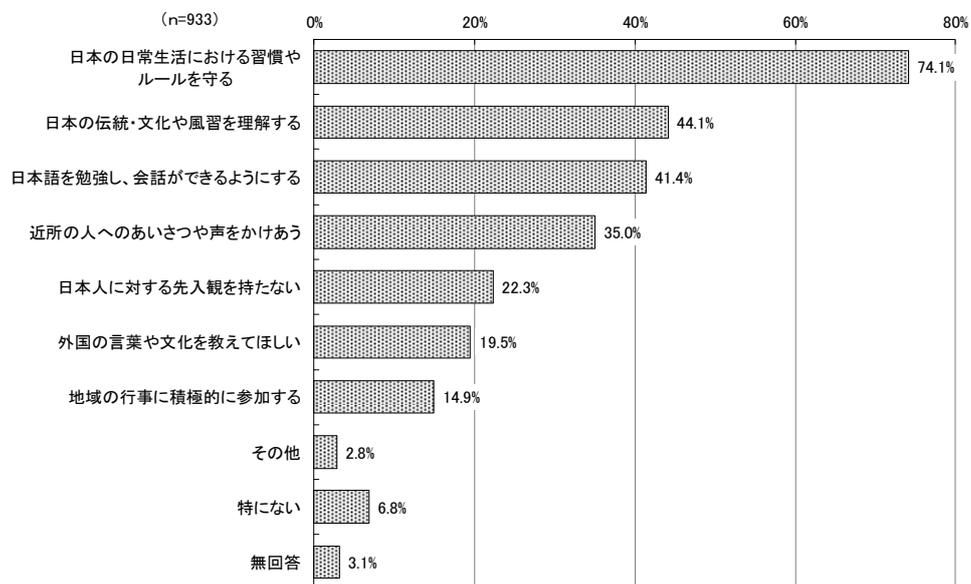
地域に暮らす外国人との関係で困った経験について、「ごみ・資源の分け方・出し方などのルールに関すること」(31.5%)が最も高く、次いで、「家・部屋からの物音や騒音など」(19.3%)、「集合住宅などの共用スペースや公共の場の使い方に関すること」(18.9%)など、日常生活のルールに関する項目への回答が高い結果となった。

図表 地域に暮らす外国人との関係で困った経験（複数回答）



また、住民相互の理解のために外国人に求めることをみると、「日本の日常生活における習慣やルールを守る」(74.1%)が最も高く、次いで、「日本の伝統・文化や風習を理解する」(44.1%)等、ルールや風習に関する回答が多く、困った経験との関係が深いことがわかる。

図表 住民相互の理解のために、外国人に求めること（複数回答）



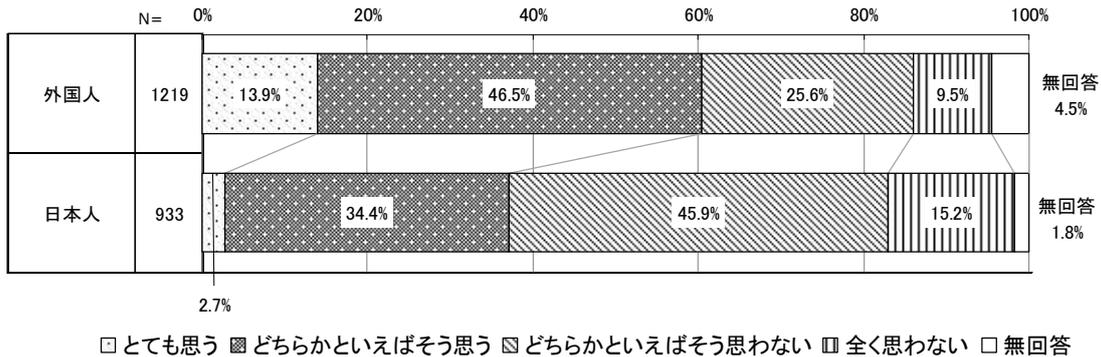
3 外国人・日本人 共通設問の比較

ポイント7

外国人に対して日本人の方がより地域の中で相互にコミュニケーションがとれていないと感じている

地域の中で日本人と外国人が互いにコミュニケーションをとれていると思うかについて、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」割合の合計は、外国人は60.4%に対し、日本人は37.1%となっている。一方、「全く思わない」「どちらかといえばそう思わない」割合の合計は、外国人は35.1%、日本人は61.1%となっている。

図表 地域の中で外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか（単一回答）

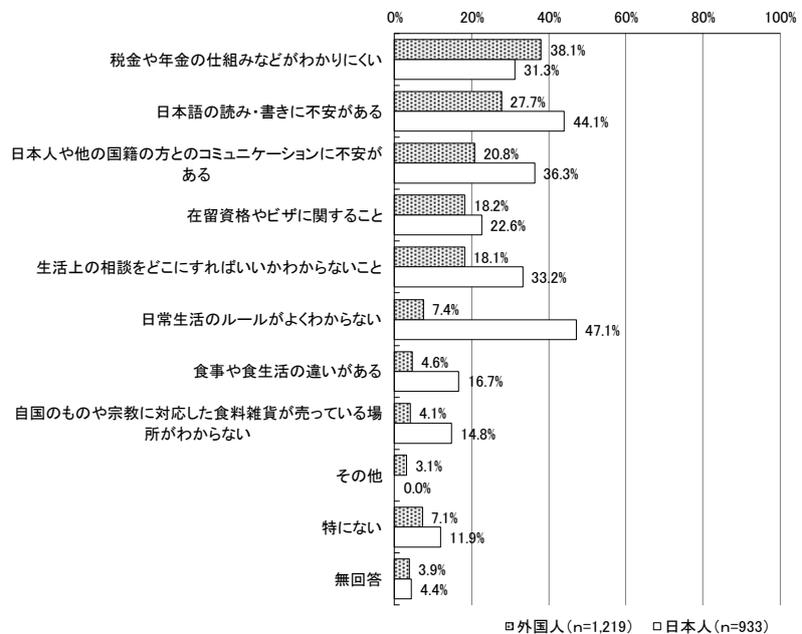


ポイント8

「外国人の困りごと・心配ごと」について、外国人と日本人の認識にはやや差異がある

図表 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（複数回答）

日本人が思う外国人が困っていることや心配なことは、「日常生活のルールがよくわからない」(47.1%)が最も高くなっているが、外国人は7.4%と低く、「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(38.1%)が最も高くなっている。このことから、外国人は日本人が思っているより、日常生活のルールに困っておらず、外国人と日本人の認識にやや差異があることがわかる。



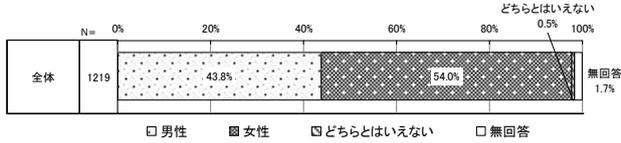
※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の設問では「日本での生活で、困っていることや心配なことはありますか」としており、日本人調査票の設問では「地域に暮らす外国人が困っていたり、不安を感じていることは何だと思えますか(あるいは何ですか)」としている。また、外国人調査票では、「住まいのこと」「地域活動のこと」「病院や医療のこと」「就労・事業経営の支援のこと」「災害時のこと」について、選択肢が細分化されており比較できないため、「日常生活」の項目のみ比較している。

外国人意識調査の結果

1 回答者の属性

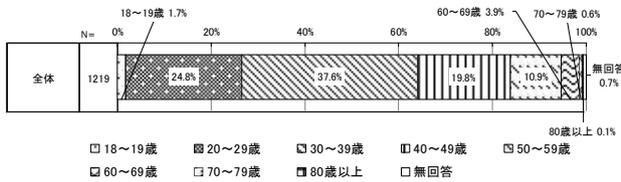
(1) 性別 (単一回答)

「男性」が43.8%、「女性」が54.0%となっている。



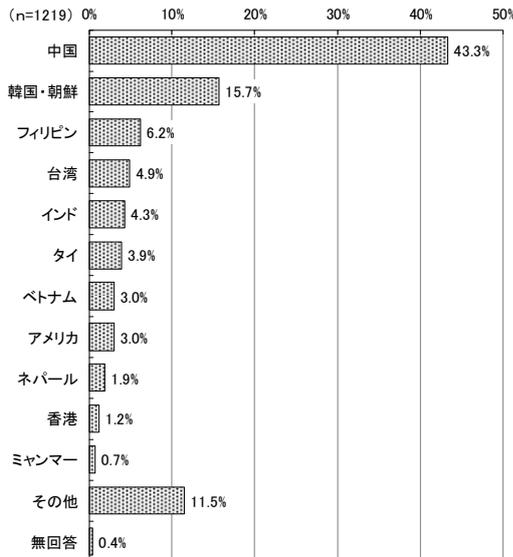
(2) 年齢 (単一回答)

「30～39歳」(37.6%)が最も高い。



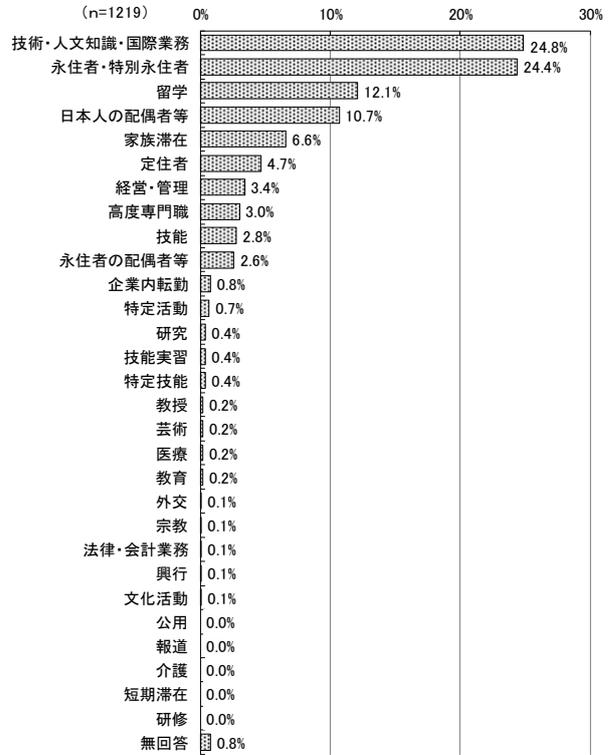
(3) 国籍・出身地域 (単一回答)

「中国」(43.3%)が最も高く、次いで、「韓国・朝鮮」(15.7%)、「フィリピン」(6.2%)となっている。



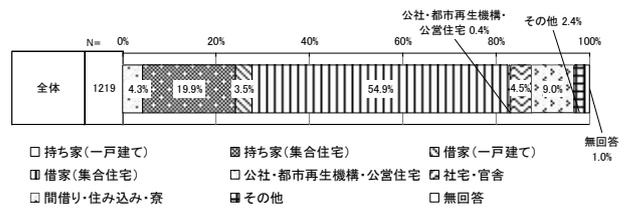
(4) 在留資格 (単一回答)

「技術・人文知識・国際業務」(24.8%)が最も高く、次いで、「永住者・特別永住者」(24.4%)となっている。



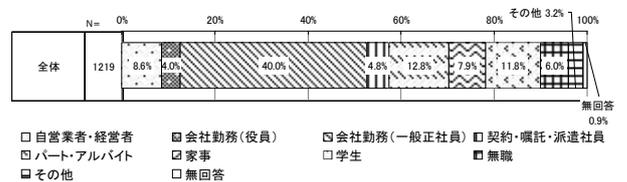
(5) 居住形態 (単一回答)

「借家(集合住宅)」(54.9%)が最も高く、次いで、「持ち家(集合住宅)」(19.9%)、「間借り・住み込み・寮」(9.0%)となっている。



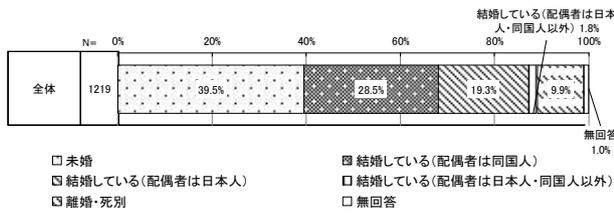
(6) 職業 (単一回答)

「会社勤務(一般正社員)」(40.0%)が最も高く、次いで、「パート・アルバイト」(12.8%)、「学生」(11.8%)、「自営業者・経営者」(8.6%)となっている。



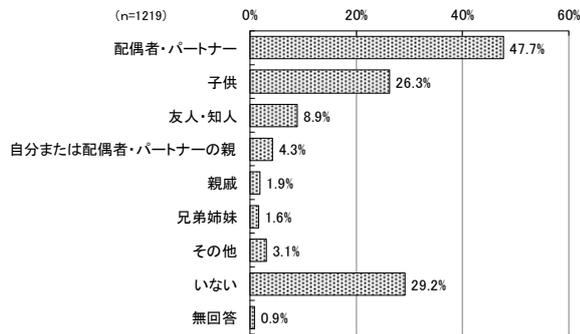
(7) 結婚の有無 (単一回答)

「未婚」(39.5%)が最も高い。



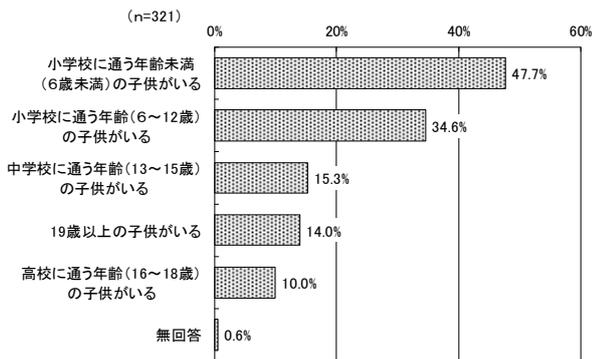
(8) 同居者 (複数回答)

「配偶者・パートナー」(47.7%)が最も高い。



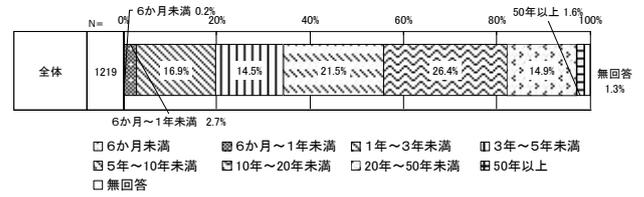
(8-2) 子供の年齢 (複数回答)

同居者について、「子供」と回答した人に、子供の年齢を聞いたところ、「小学校に通う年齢未満(6歳未満)の子供がいる」(47.7%)が最も高い。



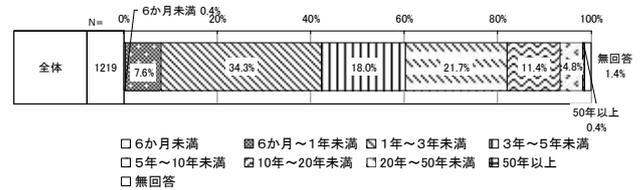
(9) 日本での居住年数 (単一回答)

「10年~20年未満」(26.4%)が最も高く、次いで、「5年~10年未満」(21.5%)、「1年~3年未満」(16.9%)となっている。



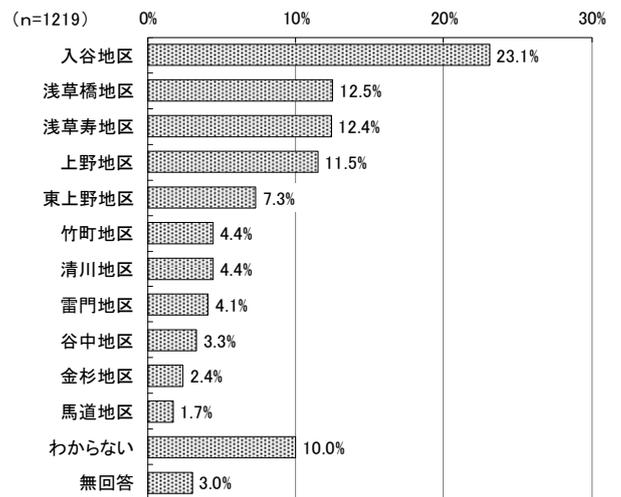
(10) 台東区での居住年数 (単一回答)

「1年~3年未満」(34.3%)が最も高く、次いで、「5年~10年未満」(21.7%)、「3年~5年未満」(18.0%)となっている。



(11) 居住地 (単一回答)

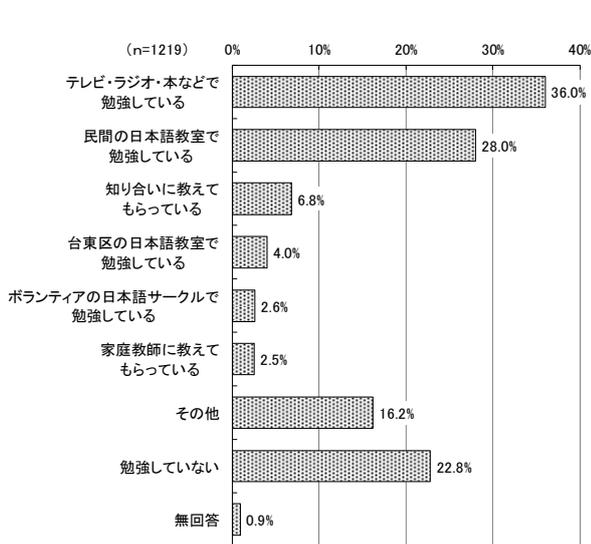
「入谷地区」(23.1%)が最も高く、次いで、「浅草橋地区」(12.5%)、「浅草寿地区」(12.4%)となっている。



2 ことばについて

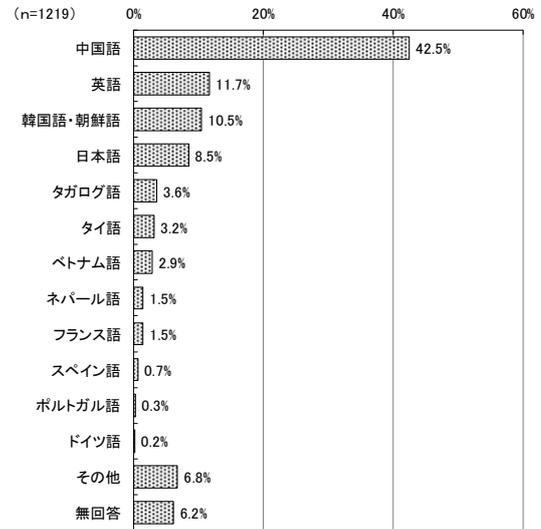
(1) 日本語の学び方 (複数回答)

「テレビ・ラジオ・本などで勉強している」(36.0%)が最も高い。



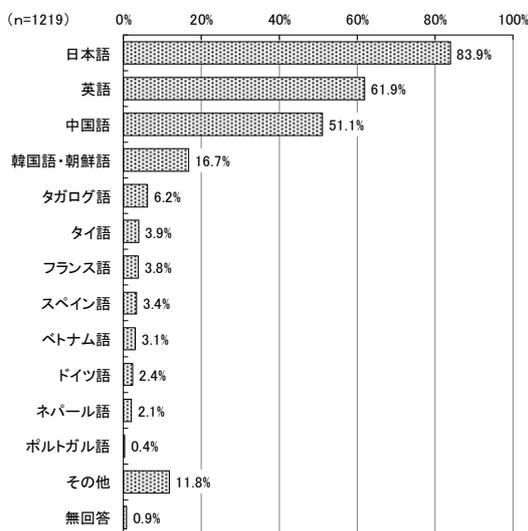
(2-2) 最も得意な言語 (単一回答)

わかる言語の中で、最も得意な言語は、「中国語」(42.5%)が最も高い。



(2-1) わかる言語 (複数回答)

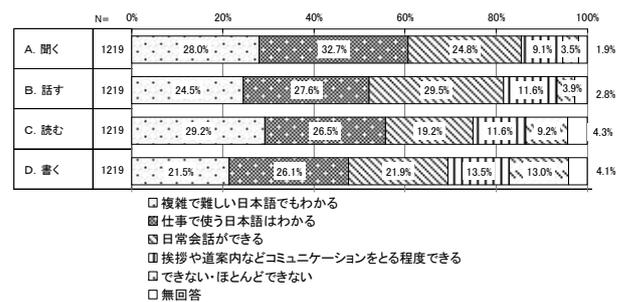
わかる言語は、「日本語」(83.9%)が最も高く、次いで、「英語」(61.9%)、「中国語」(51.1%)となっている。



(3) 日本語の習得度 (単一回答)

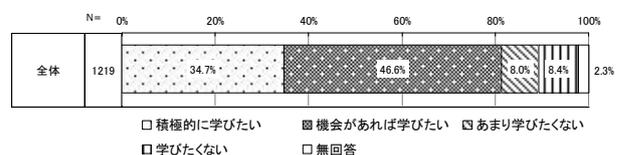
「A.聞く」及び「B.話す」の習得度は、「複雑で難しい日本語でもわかる」「仕事で使う日本語はわかる」「日常会話ができる」と回答する合計の割合が80%を超えている。

「C.読む」及び「D.書く」の習得度は、「複雑で難しい日本語でもわかる」「仕事で使う日本語はわかる」「日常会話ができる」と回答する合計の割合が70%前後となっている。



(4) 日本語の学習意欲 (単一回答)

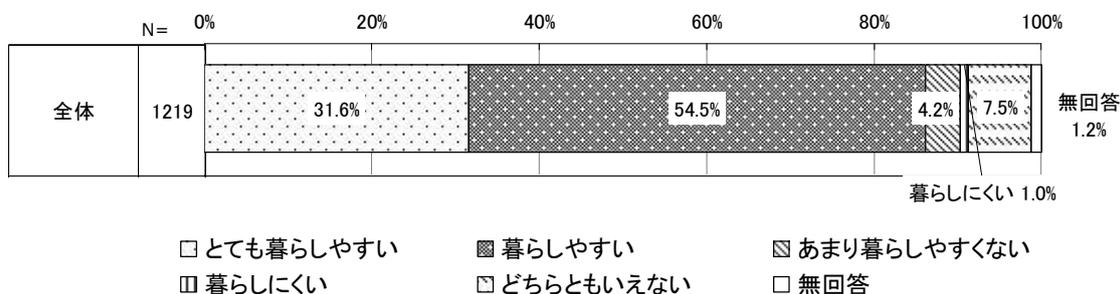
「機会があれば学びたい」(46.6%)が最も高く、次いで、「積極的に学びたい」(34.7%)となっている。



3 日頃の暮らしについて

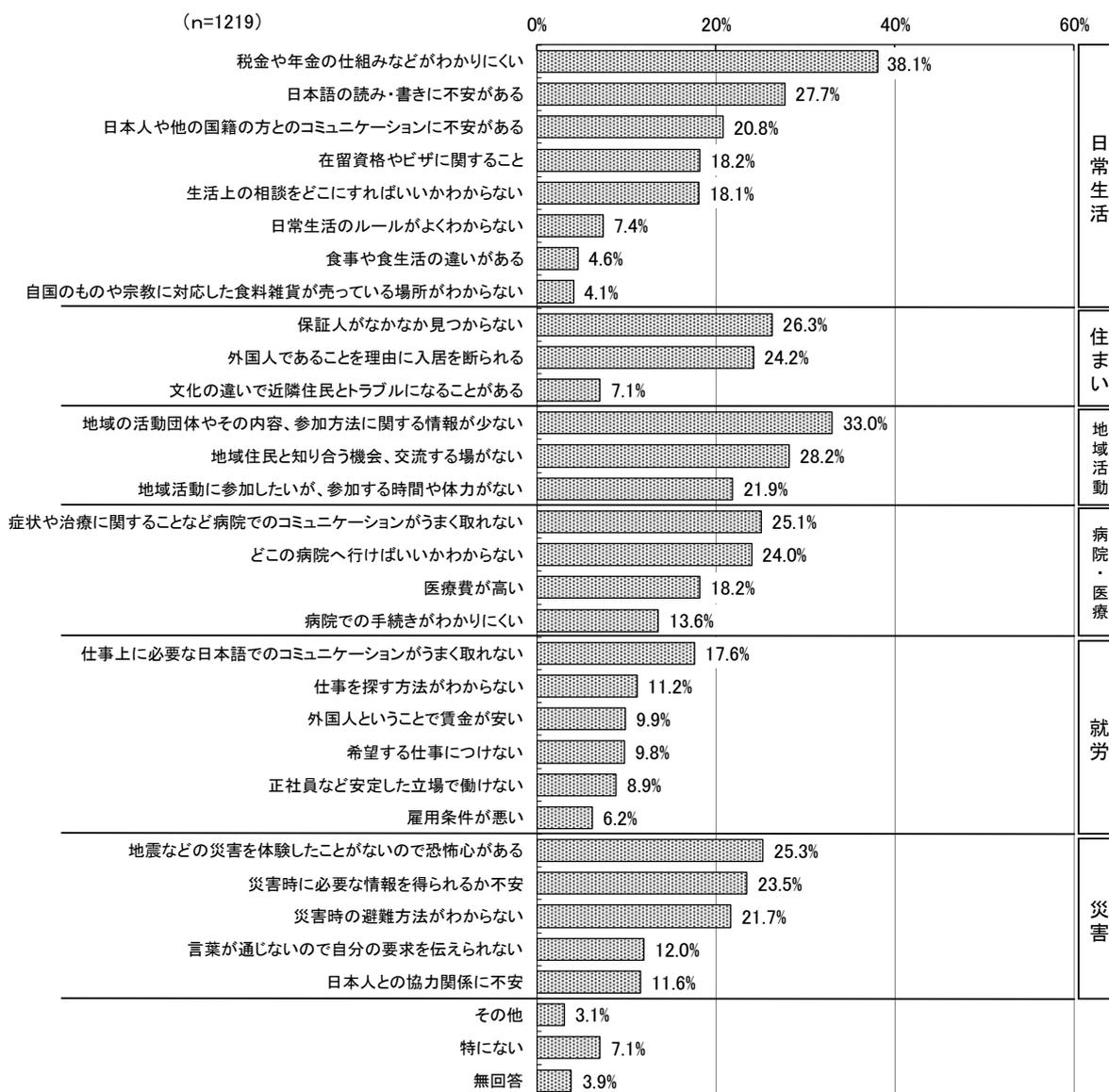
(1) 台東区の暮らしやすさ (単一回答)

「暮らしやすい」(54.5%)が最も高い。「とても暮らしやすい」「暮らしやすい」の合計の割合は86.1%、「あまり暮らしやすくない」「暮らしにくい」の合計の割合は5.2%である。



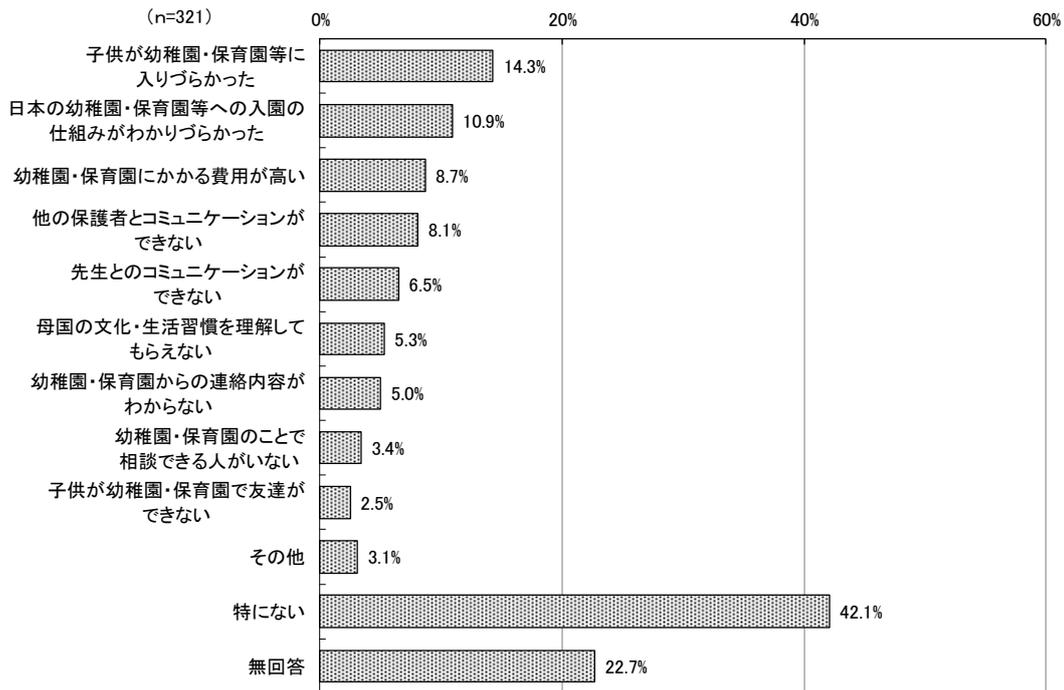
(2) 日本での生活で、困っていることや心配なこと (複数回答)

「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(38.1%)が最も高く、次いで、「地域の活動団体やその内容、参加方法に関する情報が少ない」(33.0%)、「地域住民と知り合う機会、交流する場がない」(28.2%)、「日本語の読み・書きに不安がある」(27.7%)などと続いている。



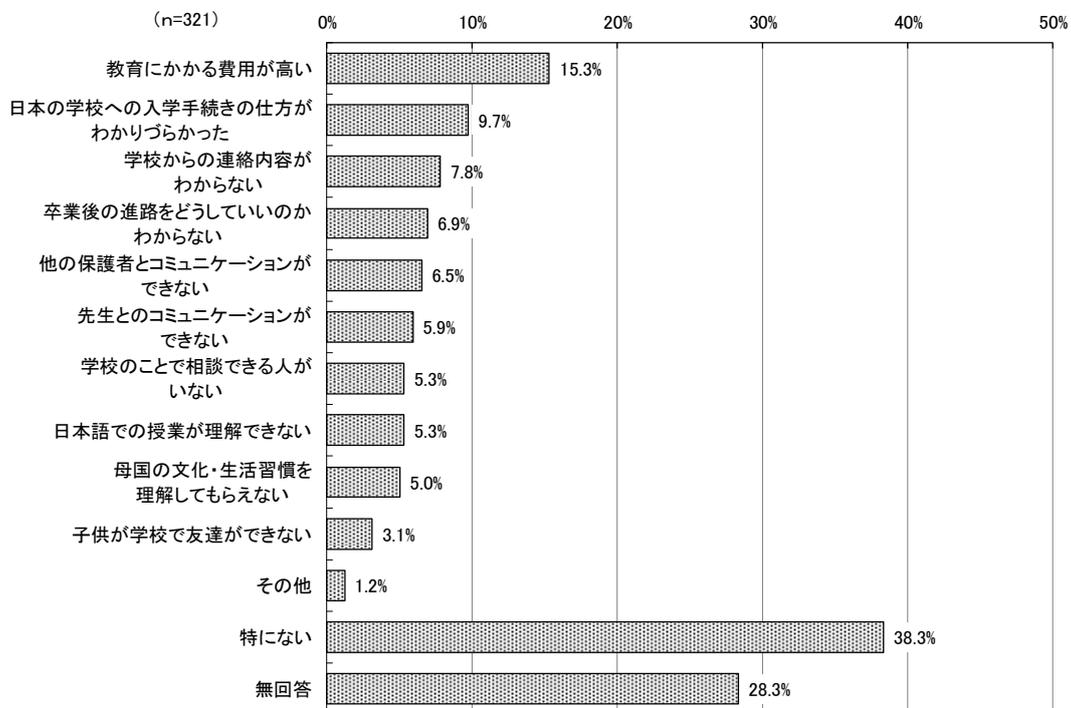
(3) 幼稚園・保育園、学校で困ったこと（複数回答）

「子供が幼稚園・保育園等に入りづらかった」(14.3%)が最も高い。



※11ページ(8)の選択肢のうち、「子供」の回答者を母数として集計している。

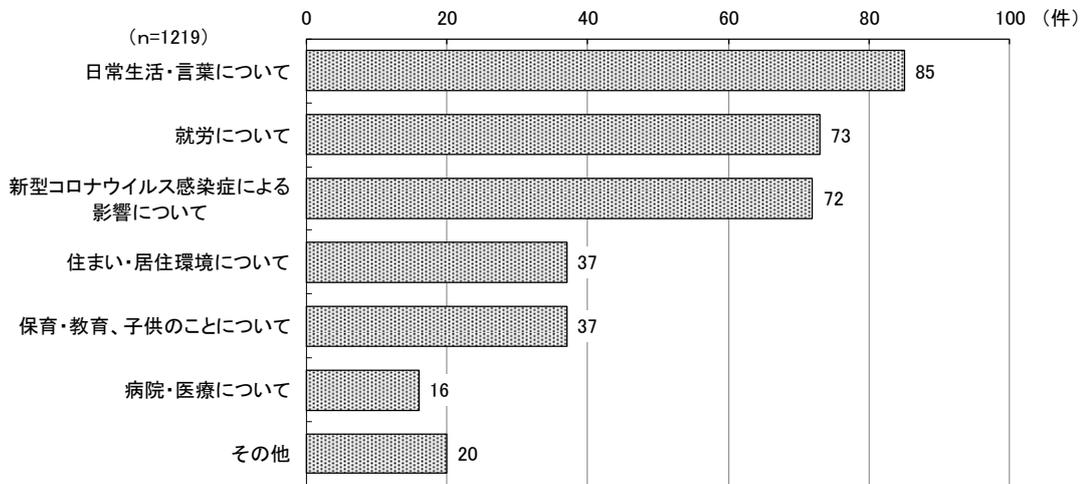
学校で困ったことでは、「教育にかかる費用が高い」(15.3%)が最も高い。



※11ページ(8)の選択肢のうち、「子供」の回答者を母数として集計している。

(4) 現在、特に困っていること（自由記述）

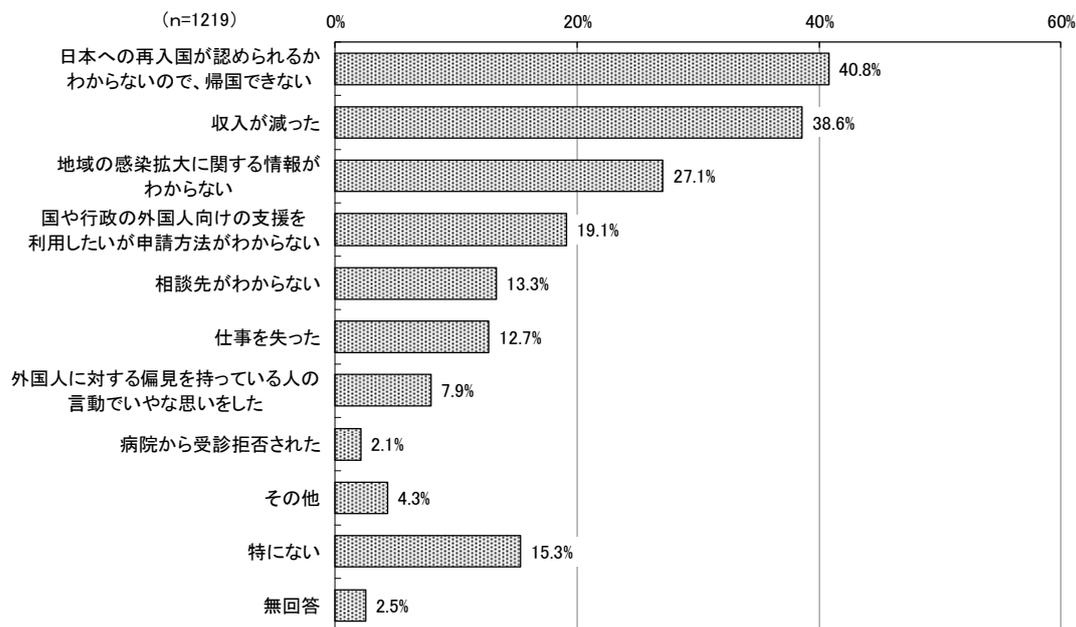
現在、特に困っている主な内容は、「日常生活・言葉について」(85件)が最も多く、次いで、「就労について」(73件)、「新型コロナウイルス感染症による影響について」(72件)、「住まい・居住環境について」「保育・教育、子供のことについて」(各37件)となっている。



分野	主な内容
日常生活・言葉について	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語が話せないためコミュニケーションに苦労している(22件) ・税金、保険料などが高くて払えない。減免手続きなどがわかりにくく困っている(19件) ・役所などで色々な情報や手続きなど、日本語が多くわかりにくい(11件) ・物価が高い(5件)
就労について	<ul style="list-style-type: none"> ・収入が減ったり仕事が無くなったため、経済的に困窮して生活が不安である(35件) ・正規雇用の仕事や就労ビザをとって働きたい。仕事の探し方を誰に相談したらよいかわからない(15件) ・転職活動が難しく仕事が見つからない(14件)
新型コロナウイルス感染症による影響について	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、収入が減ったり仕事が無くなった(35件) ・自国に帰りたいが帰れない、また日本に戻ってこられるか心配である(12件)
住まい・居住環境について	<ul style="list-style-type: none"> ・家賃が高い(14件) ・近隣の騒音や迷惑行為に悩んでいる(11件) ・保証人の問題や住宅ローンやビザの問題などで、部屋を借りづらかったり、マイホームが持ちづらい(7件)
保育・教育、子供のことについて	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園・その他預け先が確保できるか不安(15件) ・どの学校がいいかわからない、学校や受験・進路先の情報を得ること(7件)
病院・医療について	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関で英語が通じないため通訳スタッフなどがいてくれるとありがたい(7件) ・緊急時の医療支援や、病院の情報などをどこで得たらいいかわからない(4件)

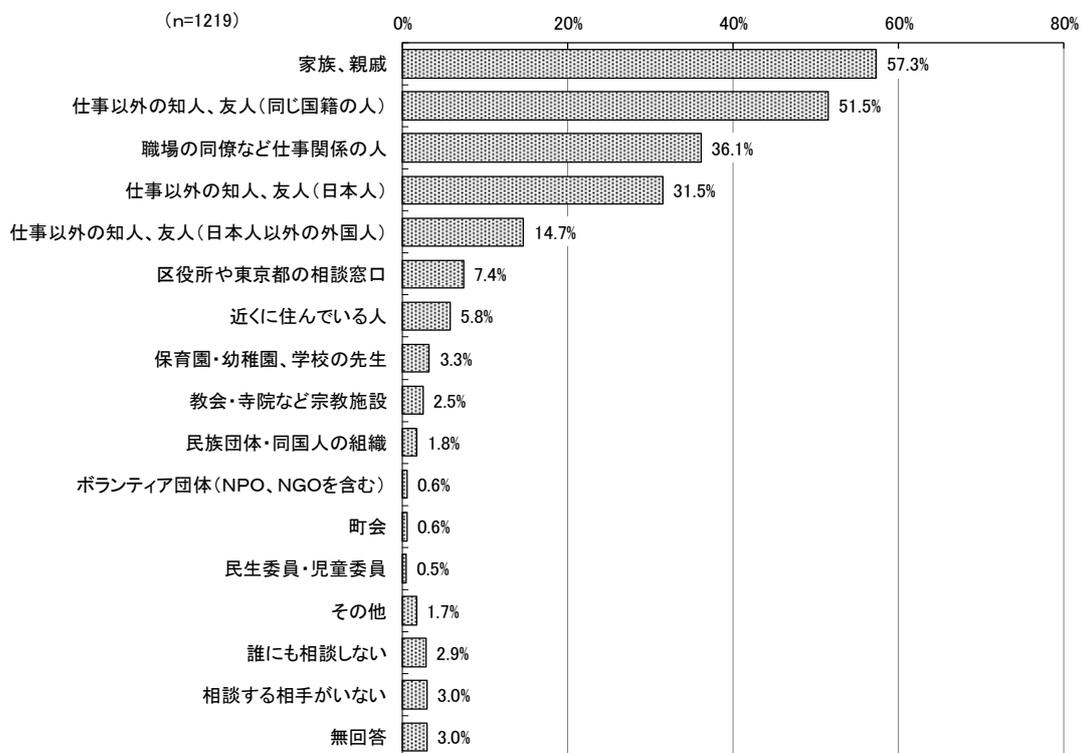
(5) 新型コロナウイルス感染拡大による影響（複数回答）

「日本への再入国が認められるかわからないので、帰国できない」(40.8%)が最も高く、次いで、「収入が減った」(38.6%)となっている。



(6) 生活で困ったときの相談先（複数回答）

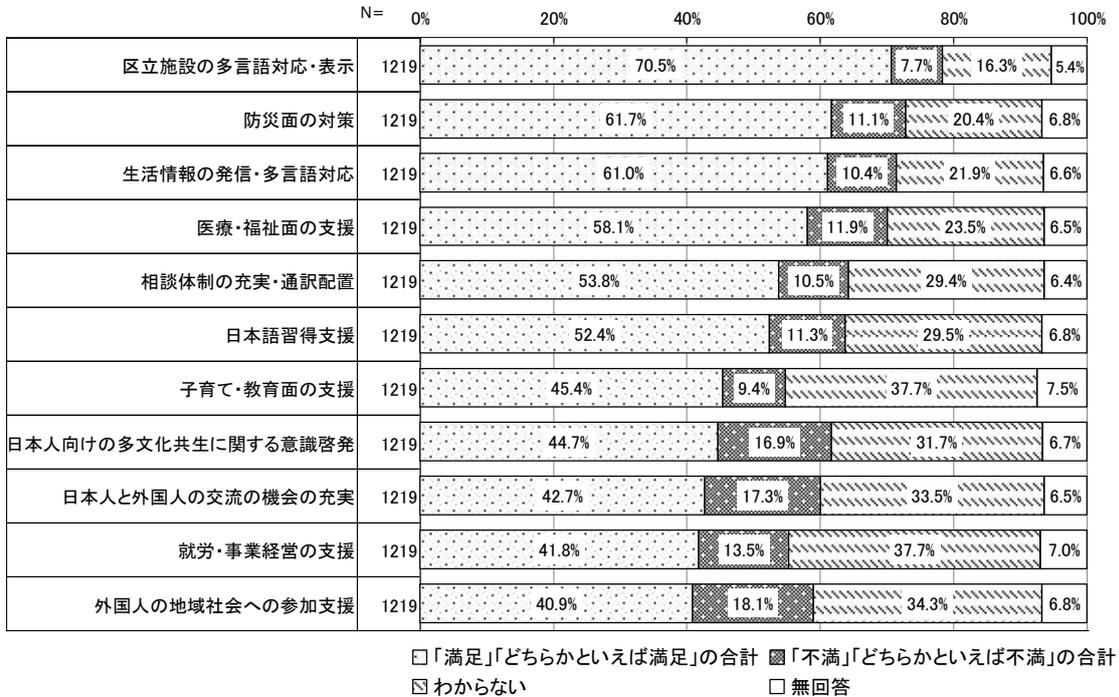
「家族、親戚」(57.3%)が最も高く、次いで、「仕事以外の知人、友人(同じ国籍の人)」(51.5%)となっている。



(7) 台東区の施策に対する満足度と必要度

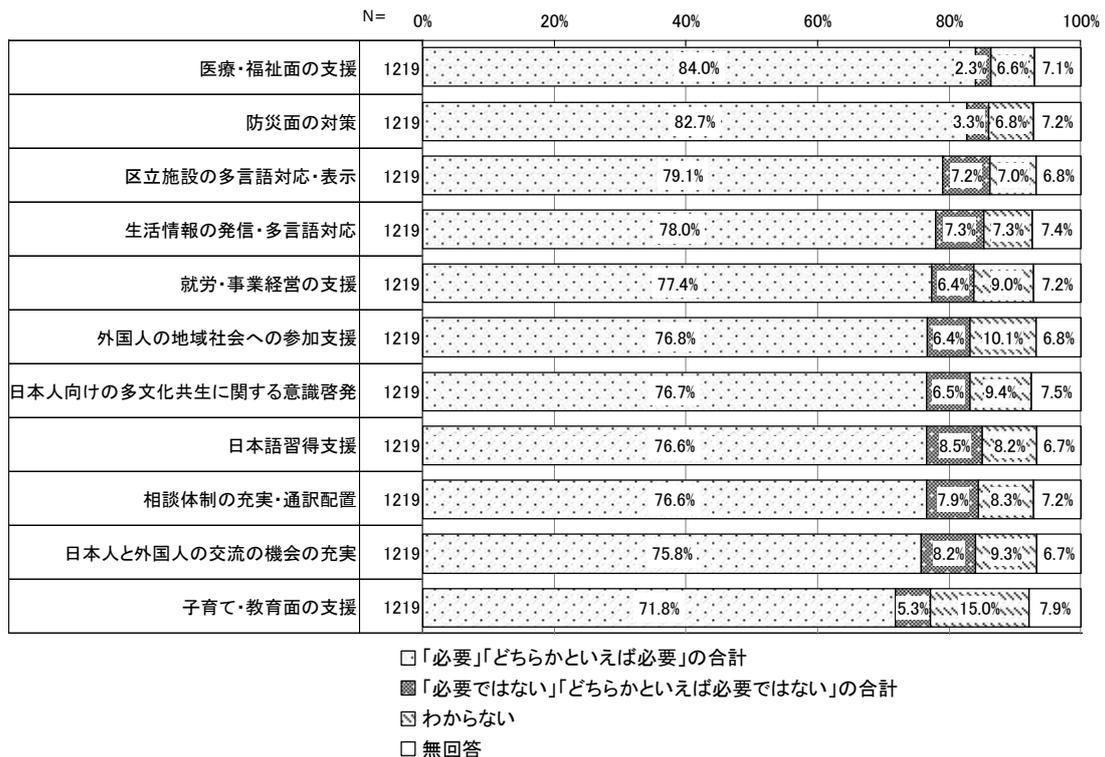
①台東区の施策に対する満足度（単一回答）

「満足」「どちらかといえば満足」の合計の割合が最も高い項目は、「区立施設の多言語対応・表示」で70%を超えている。次いで、「防災面の対策」「生活情報の発信・多言語対応」「医療・福祉面の支援」と続いている。



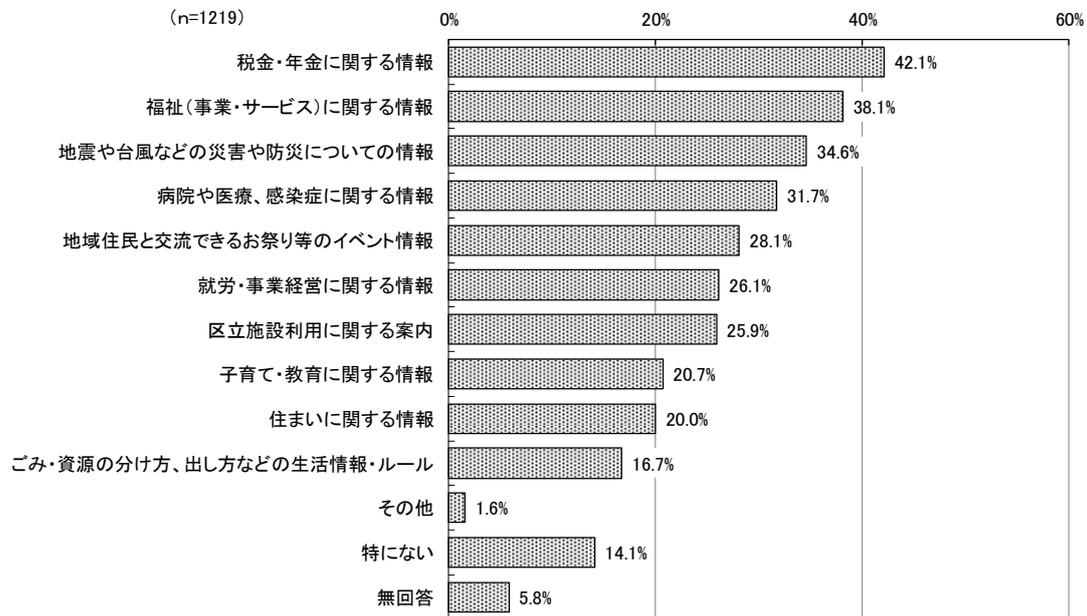
②台東区の施策に対する必要度（単一回答）

「必要」「どちらかといえば必要」の合計の割合が最も高い項目は、「医療・福祉面の支援」が80%台半ばで最も高い。次いで、「防災面の対策」「区立施設の多言語対応・表示」「生活情報の発信・多言語対応」となっている。



(8) 生活していくうえで必要な情報（複数回答）

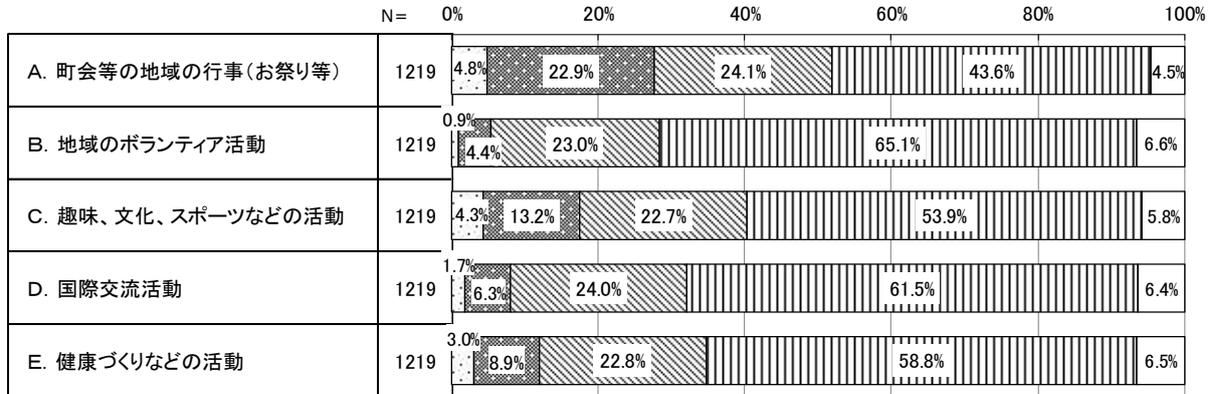
「税金・年金に関する情報」(42.1%)が最も高く、次いで、「福祉(事業・サービス)に関する情報」(38.1%)、「地震や台風などの災害や防災についての情報」(34.6%)、「病院や医療、感染症に関する情報」(31.7%)となっている。



4 地域での交流について

(1) 地域活動への参加状況（単一回答）

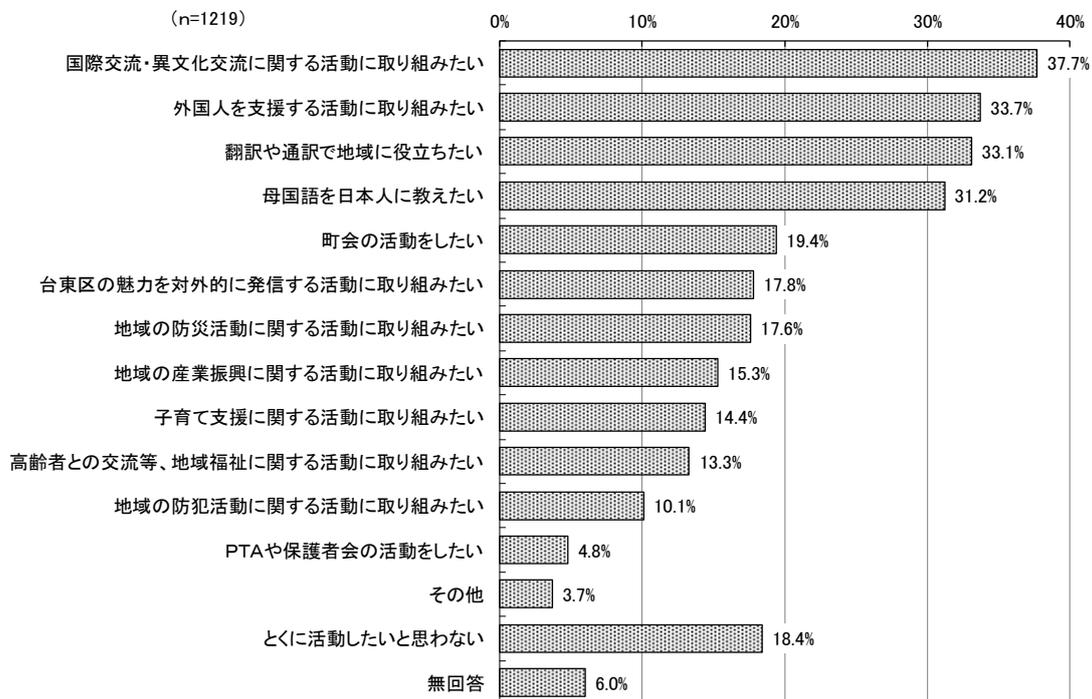
「よく参加している」「時々参加している」の合計の割合は、「A. 町会等の地域の行事(お祭り等)」(27.7%)、「C. 趣味、文化、スポーツなどの活動」(17.5%)、「E. 健康づくりなどの活動」(11.9%)の順に高い。



□ よく参加している ■ 時々参加している ▨ あまり参加していない ▩ 参加していない □ 無回答

(2) 地域活動への今後の参加意向（複数回答）

「国際交流・異文化交流に関する活動に取り組みたい」(37.7%)が最も高く、次いで、「外国人を支援する活動に取り組みたい」(33.7%)、「翻訳や通訳で地域に役立ちたい」(33.1%)となっている。

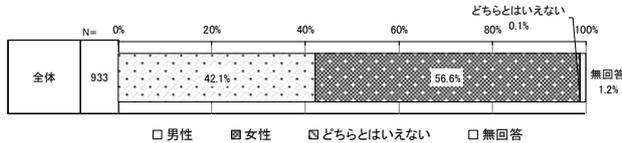


日本人意識調査の結果

1 回答者の属性

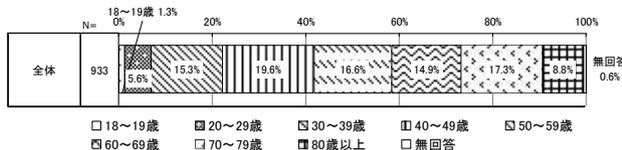
(1) 性別 (単一回答)

「男性」が42.1%、「女性」が56.6%となっている。



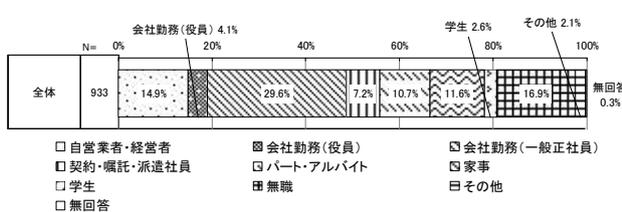
(2) 年齢 (単一回答)

「40～49歳」(19.6%)が最も高い。



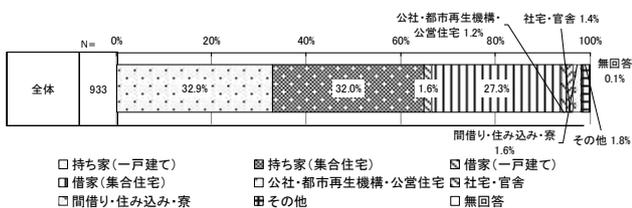
(3) 職業 (単一回答)

「会社勤務(一般正社員)」(29.6%)が最も高い。



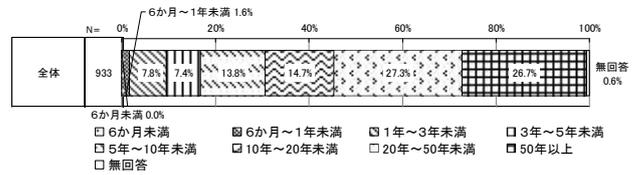
(4) 居住形態 (単一回答)

「持ち家(一戸建て)」(32.9%)が最も高い。



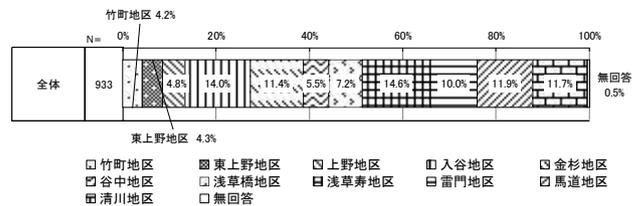
(5) 台東区での居住年数 (単一回答)

「20年～50年未満」(27.3%)が最も高く、次いで、「50年以上」(26.7%)となっている。



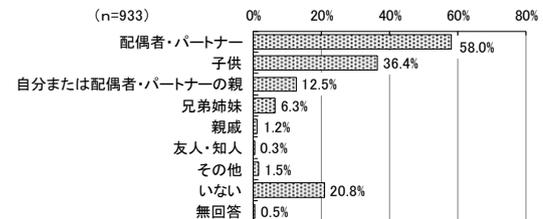
(6) 居住地域 (単一回答)

「浅草寿地区」(14.6%)が最も高く、次いで、「入谷地区」(14.0%)、「馬道地区」(11.9%)となっている。



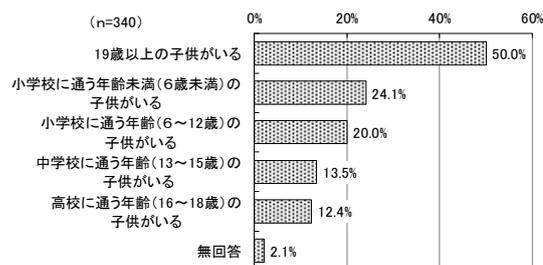
(7) 同居者 (複数回答)

「配偶者・パートナー」(58.0%)が最も高い。



(7-2) 子供の年齢 (複数回答)

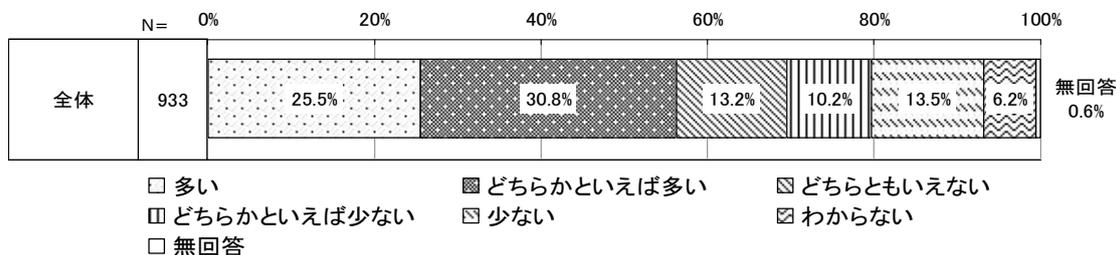
同居者について、「子供」と回答した人に、子供の年齢について聞いたところ、「19歳以上の子供がいる」(50.0%)が最も高い。



2 地域に暮らす外国人とのかかわりについて

(1) 身近なところに外国人は多いか（単一回答）

「どちらかといえば多い」(30.8%)が最も高く、次いで、「多い」(25.5%)、「少ない」(13.5%)となっている。「多い」「どちらかといえば多い」の合計の割合は56.3%である。



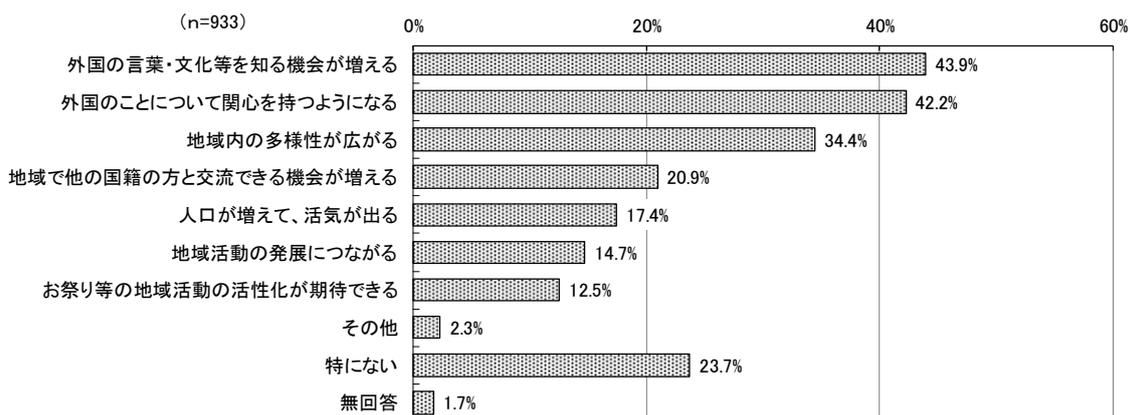
【居住地区別】

「多い」「どちらかといえば多い」を合計した割合は、「竹町地区」で全体平均より約20ポイント高い70%台半ばとなっている。次いで、「浅草橋地区」が70%弱で続き、「東上野地区」「上野地区」「雷門地区」も60%台と高くなっている。

上段:人数 下段:%	全 体	多い	どちらかとい えば多い	どちらとも いえない	どちらかとい えば少ない	少ない	わからない	無回答
全体	933	238	287	123	95	126	58	6
	100.0%	25.5%	30.8%	13.2%	10.2%	13.5%	6.2%	0.6%
竹町地区	39	19	11	1	4	3	1	0
	100.0%	48.7%	28.2%	2.6%	10.3%	7.7%	2.6%	0.0%
東上野地区	40	13	12	8	2	2	3	0
	100.0%	32.5%	30.0%	20.0%	5.0%	5.0%	7.5%	0.0%
上野地区	45	10	18	4	2	8	3	0
	100.0%	22.2%	40.0%	8.9%	4.4%	17.8%	6.7%	0.0%
入谷地区	131	39	31	21	12	23	5	0
	100.0%	29.8%	23.7%	16.0%	9.2%	17.6%	3.8%	0.0%
金杉地区	106	21	36	14	9	17	7	2
	100.0%	19.8%	34.0%	13.2%	8.5%	16.0%	6.6%	1.9%
谷中地区	51	9	14	7	8	10	3	0
	100.0%	17.6%	27.5%	13.7%	15.7%	19.6%	5.9%	0.0%
浅草橋地区	67	22	24	7	8	6	0	0
	100.0%	32.8%	35.8%	10.4%	11.9%	9.0%	0.0%	0.0%
浅草寿地区	136	38	37	21	14	19	6	1
	100.0%	27.9%	27.2%	15.4%	10.3%	14.0%	4.4%	0.7%
雷門地区	93	25	32	10	8	12	6	0
	100.0%	26.9%	34.4%	10.8%	8.6%	12.9%	6.5%	0.0%
馬道地区	111	24	35	15	14	17	6	0
	100.0%	21.6%	31.5%	13.5%	12.6%	15.3%	5.4%	0.0%
清川地区	109	17	37	15	14	9	16	1
	100.0%	15.6%	33.9%	13.8%	12.8%	8.3%	14.7%	0.9%

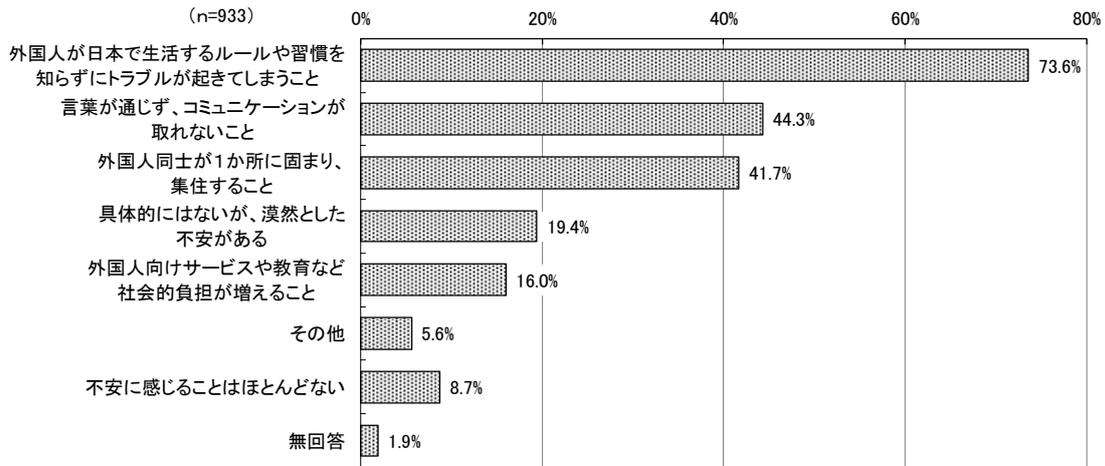
(2) 地域に暮らす外国人が増えることにより良くなること（複数回答）

「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」(43.9%)が最も高い。



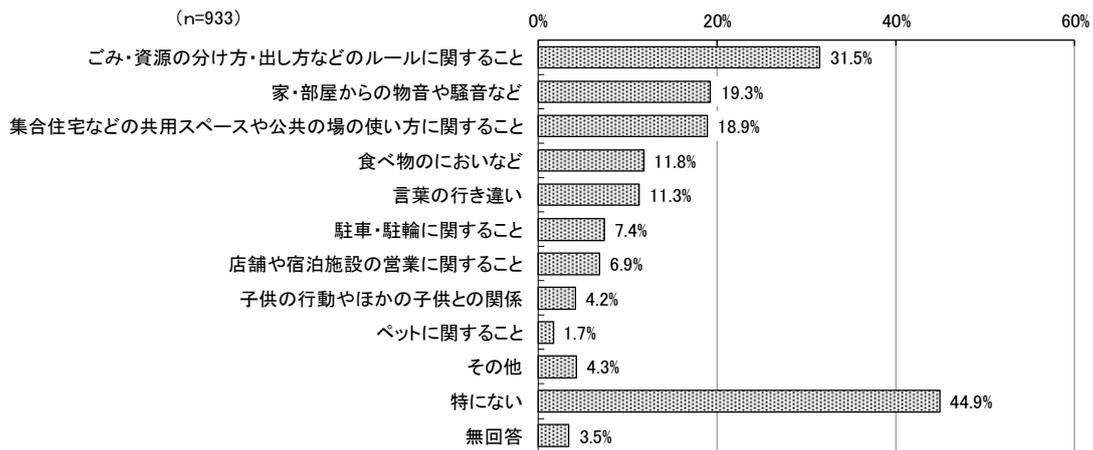
(3) 地域に暮らす外国人が増えることで心配や不安に感じる事 (複数回答)

「外国人が日本で生活するルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと」(73.6%)が最も高い。



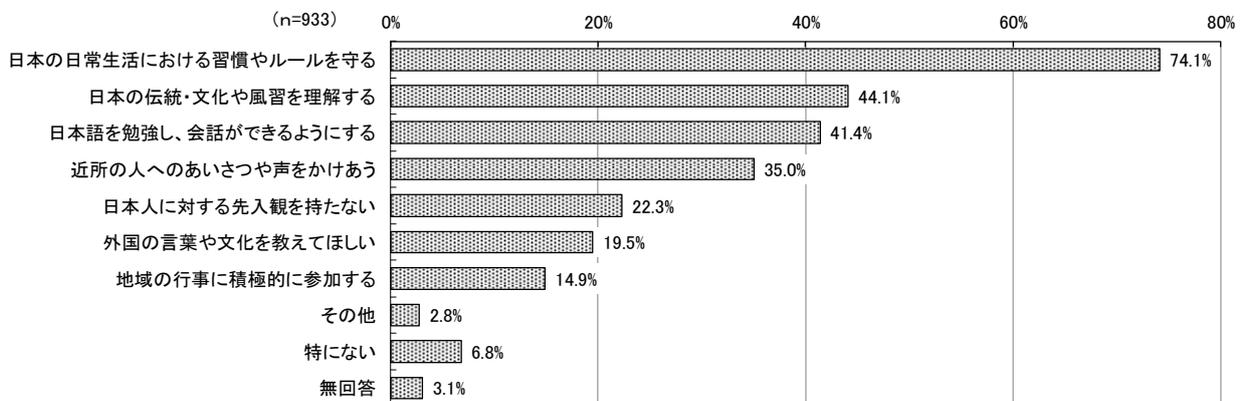
(4) 地域に暮らす外国人との関係で困った経験 (複数回答)

「ごみ・資源の分け方・出し方などのルールに関する事」(31.5%)が最も高い。



(5) 住民相互の理解のために、外国人に求めること (複数回答)

「日本の日常生活における習慣やルールを守る」(74.1%)が最も高い。

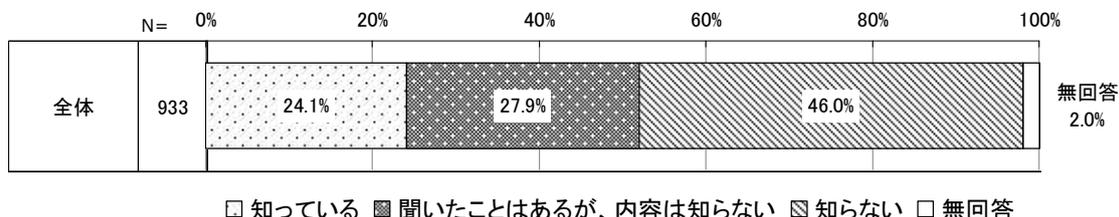


3 多文化共生のまちづくりについて

(1) 「多文化共生社会」という言葉の認知度（単一回答）

「知らない」(46.0%)が最も高い。

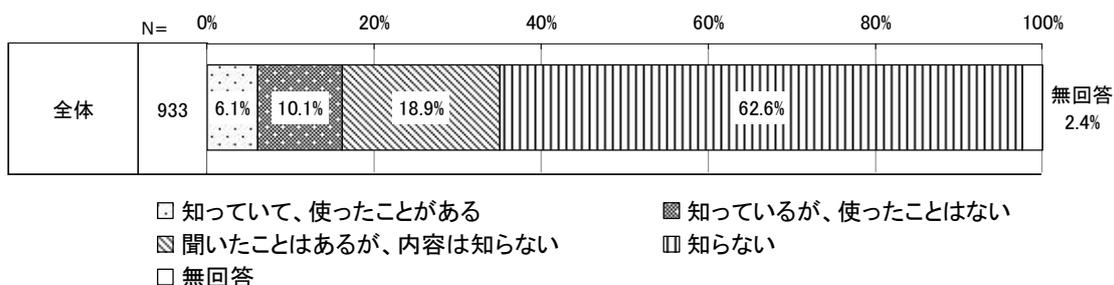
「知っている」(24.1%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」(27.9%)を合わせた認知度は52.0%である。



(2) 「やさしい日本語」の認知度（単一回答）

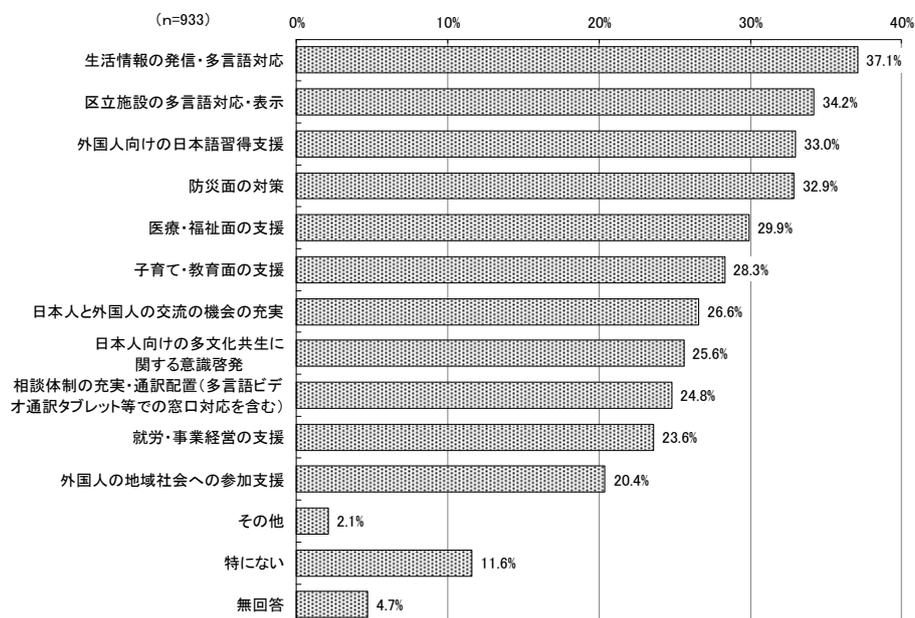
「知らない」(62.6%)が最も高い。

「知っている、使ったことがある」(6.1%)、「知っているが、使ったことはない」(10.1%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」(18.9%)を合わせると認知度は35.1%である。



(3) 地域の中で日本人と外国人が理解しあい、共に生きていくまちづくりを進めるために、台東区が力を入れるべきだと思うこと（複数回答）

「生活情報の発信・多言語対応」(37.1%)が最も高く、次いで、「区立施設の多言語対応・表示」(34.2%)、「外国人向けの日本語習得支援」(33.0%)、「防災面の対策」(32.9%)となり、上位4位は30%以上となっている。



(4) 地域に暮らす外国人に期待すること(自由記入)

順位	主な内容	件数
1位	生活習慣やルールを守る	69件
	・日本で生活するならルールや文化を理解して生活してほしい。 ・騒音やゴミ出し、トイレや自転車のマナーなどを守ってほしい。 ・お互いに認め合い交流を深めていきたい。	
2位	日本の伝統・文化を理解する	39件
	・日本人が気がつかない土地の魅力などを発信してほしい。 ・日本の文化や生活様式を自国に伝えてほしい。 ・お互いに学ぼうとする気持ちや相互理解は必要だと思う。	
3位	外国の言葉や文化を教えてほしい	25件
	・小中学校などで、様々な国の文化や習慣などが学べるような講演会やイベントがあればいい。 ・外国語や料理を教えてもらえるような、イベントや文化交流があったら参加したい。	
4位	地域行事に参加	18件
	・地域の行事に参加して台東区の活性化に力を貸してほしい。 ・地域の人々と交流を持ち、お互いの理解が深まればいいと思う。	
5位	日本語を勉強し、会話ができるようにする	13件
	・日本語を理解するように努力してほしい。 ・日本語が通じているかもわからずコミュニケーションが取れない。	
6位	あいさつや声かけ	12件
	・すれ違ってても下を向いてしまかなか挨拶できないので残念である。 ・気軽に挨拶しあえるような関係が築けたらいい。	
7位	日本人への先入観をもたない	9件
	・困ったことがあったら身近にいる日本人に気軽に相談してほしい。 ・外国人同士で固まっているようにみえるので、日本人ともっとたくさん交流してほしい。	

(5) 台東区における多文化共生の推進についての意見(自由記入)

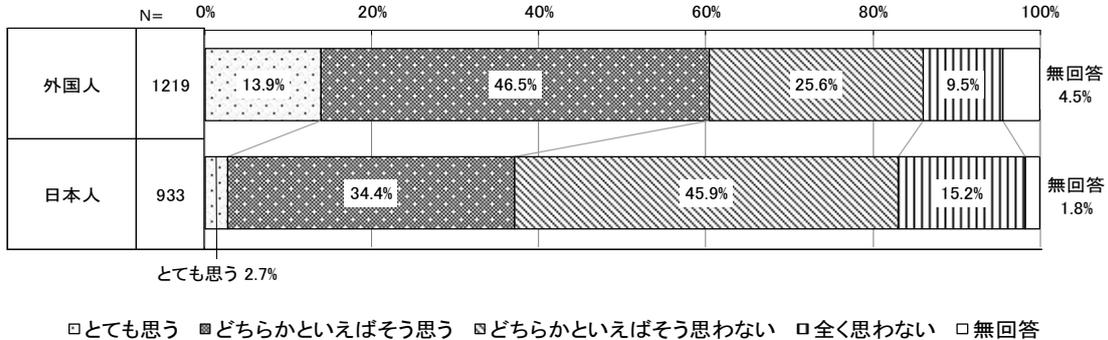
順位	主な内容	件数
1位	日本人と外国人の交流の機会の充実	39件
	・地域に暮らす外国人、もしくは外国にルーツのある方との交流を持てる機会を増やしてほしい。 ・国際フェスティバルや多文化イベントなどがあるといい。 ・いつどこでやっているかわからないので、積極的に情報発信してほしい。	
2位	日本人向けの多文化共生に関する意識啓発	27件
	・多文化共生のためのルールづくりや体制づくりは常に刷新するべきだと思う。 ・「多文化共生」という言葉も知らない人が多いので、啓発にもっと力を入れて普及させてほしい。	
3位	生活情報の発信・多言語対応	18件
	・基本的な日本語や生活マナーなどを知ってもらいたい。 ・区報や区役所のHPでわかりやすく発信してもらいたい。	
4位	子育て・教育面の支援	16件
	・区内の小中学生にも積極的な異文化理解・交流の機会をつくって、多文化共生の推進に関わるようにしてあげるといい。 ・低学年のうちから国籍や言語、様々な文化や習慣の違いなどを伝え、差別や無理解が生じないような教育を行ってほしい。	
5位	相談体制の充実・通訳配置	各8件
	・多くの外国人が住む地域や職場に、役所の職員の方が出向いて直接話す機会を設けたらどうか。 ・ルールなどを積極的にアドバイスする人を養成し、出向いていってコミュニケーションをとるようなシステムがあるといいと思う。	
7位	外国人の地域社会への参加支援	5件
	・地域社会でお互いに協力、調和し、助け合って活性化していきたい。 ・若い世代中心に地域交流を進めてほしい。	
8位	区立施設の多言語対応・表示	5件
	・外国人が一定以上居住しているので、外国人向けに多言語表記や案内は必要だと思う。	
10位	外国人向けの日本語習得支援	各4件
	・外国から来た子供のための日本語教育や一般的な学習支援のためのボランティア活動は行われていないのだろうか。 ・予算は日本語教育へ使ってほしい。	
10位	防災面の対策	3件
	・防災アナウンスの外国語放送もしてほしい。	
10位	就労・事業経営の支援	3件
	・外国人の就労や雇用を推進し、地域活性や外国人観光客の招致を推し進めてほしい。	

外国人・日本人 共通設問の比較

1 地域に暮らす外国人と日本人とのかかわりについて

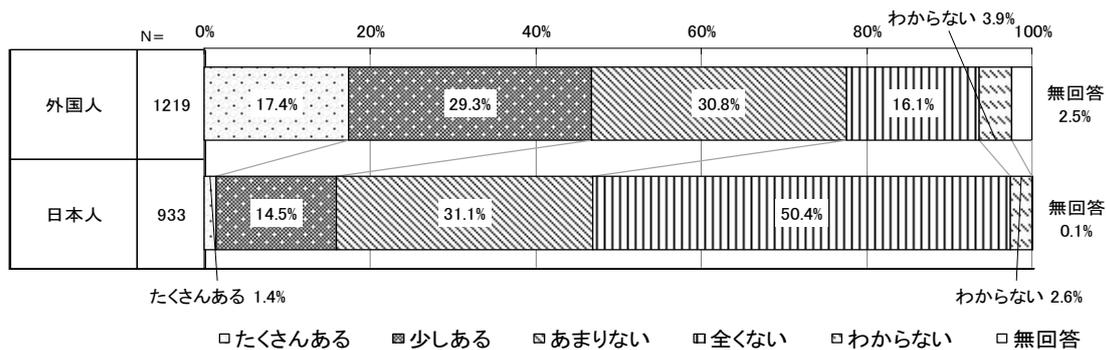
(1) 外国人と日本人の地域における相互コミュニケーション (単一回答)

地域の中で日本人と外国人が互いにコミュニケーションをとれていると思うかについては、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」割合の合計は、外国人の60.4%に対し、日本人は37.1%となっている。



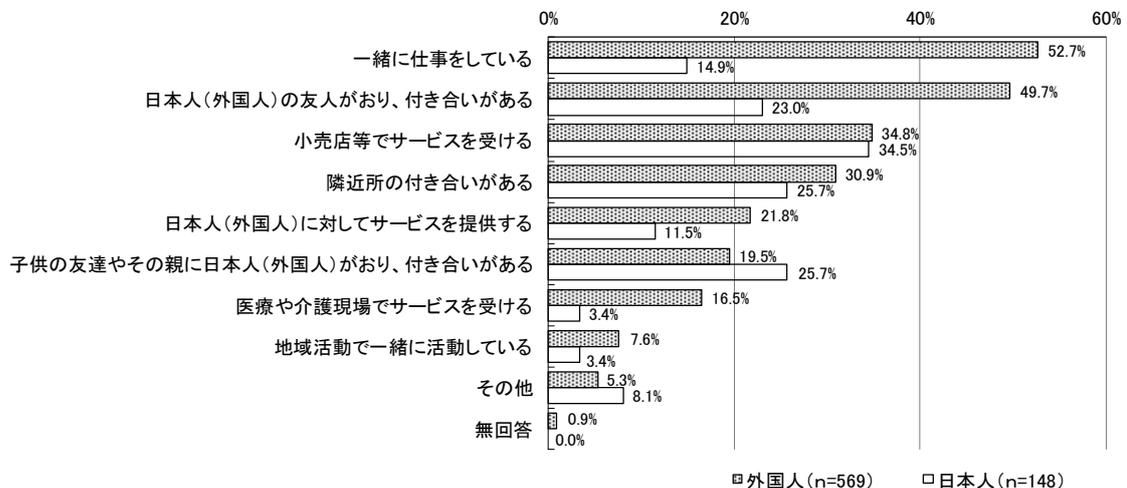
(2) 地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会 (単一回答)

「たくさんある」「少しある」割合の合計は、外国人の46.7%に対し、日本人は15.9%となっている。



(2-2) 地域内で外国人と日本人がかかわる場面 (複数回答)

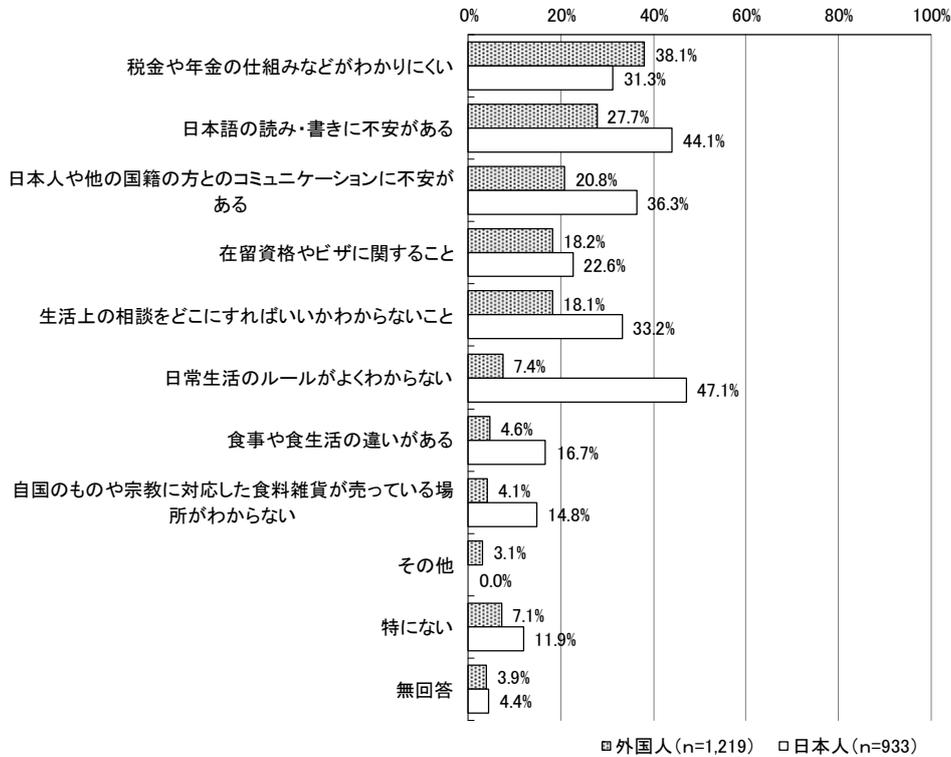
地域に暮らす外国人・日本人との交流の機会が、「たくさんある」「少しある」と回答した人に、地域内で外国人と日本人がかかわる場面について聞いたところ、外国人は、「一緒に仕事をしている」(52.7%)が最も高く、日本人は「小売店等でサービスを受ける」(34.5%)が最も高い。



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所には()として日本人調査票の文言を記載している。

(3) 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（複数回答）

外国人は、困っていることや心配なこととして「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(38.1%)、「日本語の読み・書きに不安がある」(27.7%)、「日本人や他の国籍の方とのコミュニケーションに不安がある」(20.8%)を回答する割合が高くなっているのに対し、日本人が思う外国人が困っていることや心配なことは、「日常生活のルールがよくわからない」(47.1%)、「日本語の読み・書きに不安がある」(44.1%)を回答する割合が高い。困っていることに対して、外国人と日本人の認識に差異があることがわかる。

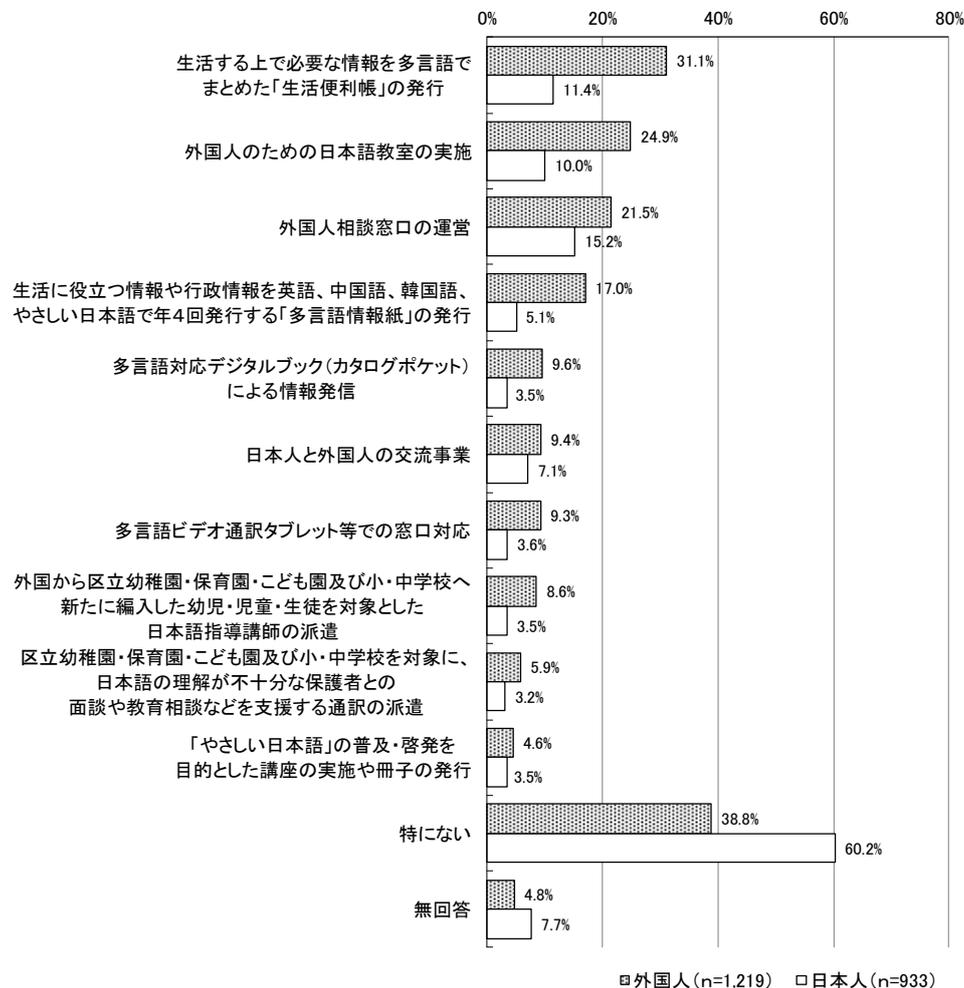


※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の設問では「日本での生活で、困っていることや心配なことはありますか」としており、日本人調査票の設問では「地域に暮らす外国人が困っていたり、不安を感じていることは何だと思えますか(あるいは何ですか)」としている。また、外国人調査票では、「住まいのこと」「地域活動のこと」「病院や医療のこと」「就労・事業経営の支援のこと」「災害時のこと」について、選択肢が細分化されており比較できないため、「日常生活」の項目のみ比較している。

2 外国人を対象としたサービスや取組の認知度について

外国人を対象としたサービスや取組の認知度（複数回答）

外国人・日本人ともに「特にない」が最も高く、38.8%・60.2%となっている。知っているサービスや取組としては、外国人は「生活する上で必要な情報を多言語でまとめた『生活便利帳』の発行」(31.1%)、日本人は「外国人相談窓口の運営」(15.2%)が最も高くなっている。



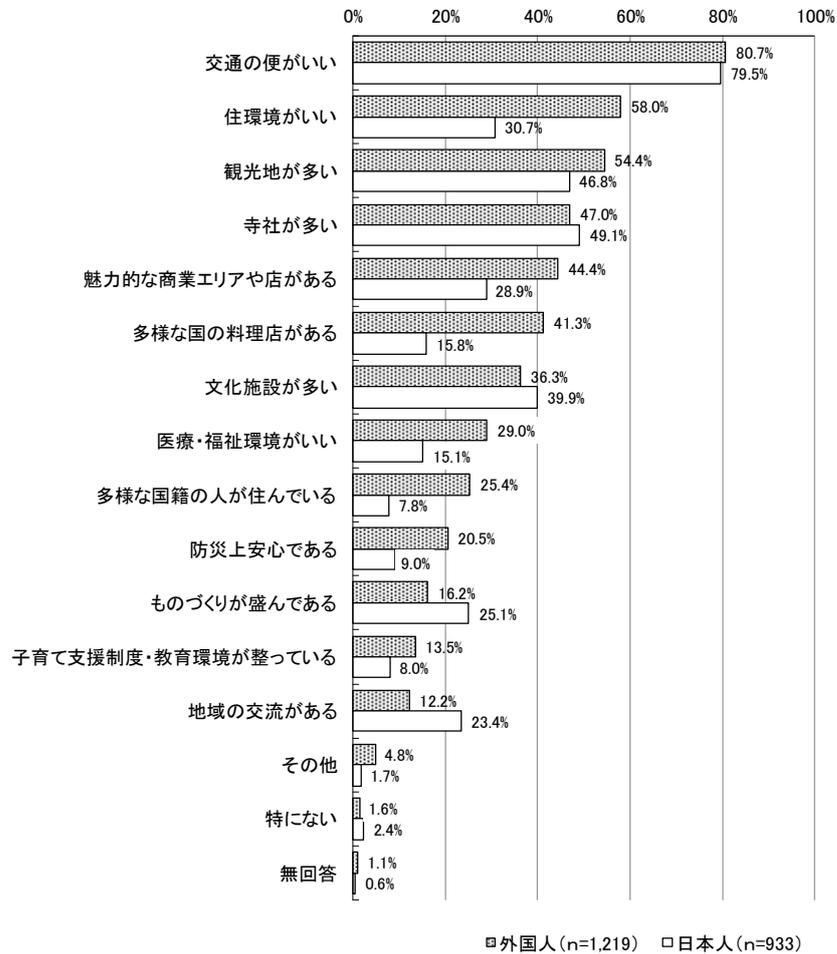
※外国人調査票と日本人調査票の設問文に相違がある。外国人調査票の設問では「台東区で実施している外国人を対象としたサービスや取組を知っていますか」としており、日本人調査票の設問では「台東区が実施している多文化共生に関する取組で知っているものは何ですか」としている。

3 台東区の魅力について

台東区の魅力は何だと思うか（複数回答）

外国人・日本人ともに「交通の便がいい」が最も高く、80.7%・79.5%となっている。

その他に、外国人は「住環境がいい」(58.0%)、「観光地が多い」(54.4%)が高く、日本人は「寺社が多い」(49.1%)、「観光地が多い」(46.8%)が高くなっている。



台東区多文化共生に関する意識調査報告書 概要版

発行年月:令和3年1月

発行:台東区区民部区民課 協働・多文化共生係

所在地:〒110-8615 台東区東上野4-5-6

電話:03-5246-1126

図書登録:令和2年度 登録第7号